

竹原市
男女共同参画市民意識
調査結果報告書

平成28年11月

竹原市

目次

◆市民意識調査

I	調査の概要	1
II	調査結果	3
	1. 本調査の回答者の属性	4
	2. 男女平等・役割分担について	10
	3. 就労・働き方について	25
	4. セクハラ・配偶者等からの暴力について	32
	5. 男女共同参画に関する市の施策について	40
	自由回答	47
III	男女共同参画に関する市民意識調査票及び単純集計	50
IV	調査結果のまとめ	64

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は男女が性別にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向け、「第2次たけはら男女共同参画プラン」に基づいた取り組みの成果を検証することを目的として、竹原市にお住まいの20歳以上の方々を対象に実施したものです。

2. 調査設計

◆市民意識調査

調査地域	竹原市
調査対象者	竹原市に住んでいる20歳以上の市民
調査期間	2016年7月1日～8月1日
調査方法	郵送配布・郵送回収による郵送調査方法

3. 回収結果

◆市民意識調査

区分	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
総数	1,000票	388票	38.8%	387票	38.7%
女性	500票	210票	42.0%	209票	41.8%
男性	500票	172票	34.4%	172票	34.4%

4. 報告書の見方

- 回答結果は、有効サンプル数に対して、それぞれの割合を示しています。少数第2位を四捨五入しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表のNは実数を表しています。
- 統計に関する記述中の「 $p < .01$ 」という表記は、統計学的に意味のある（有意な）差があることを示しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

Ⅱ 調査結果

1. 本調査の回答者の属性

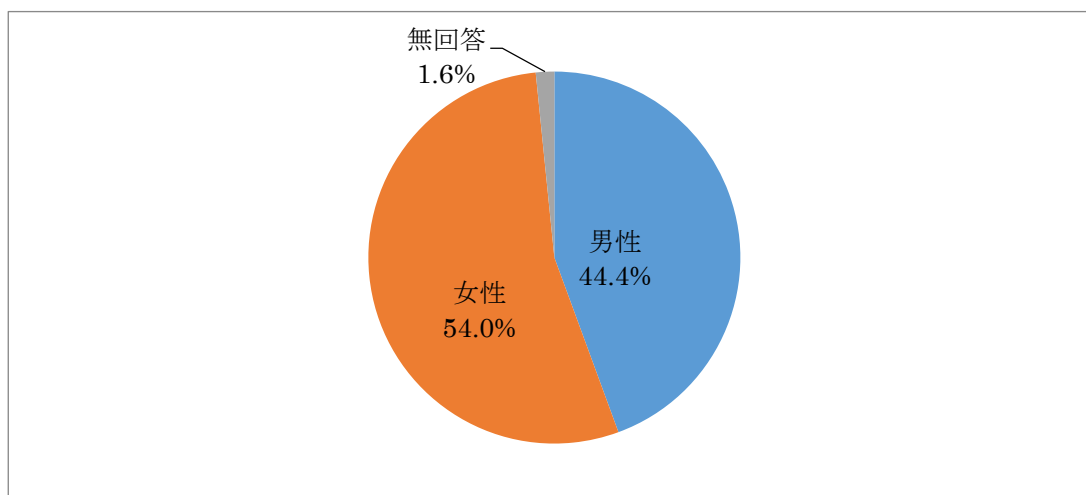
本調査の回答者は、平成 28 年 8 月 1 日現在において、20 歳以上の市民 23,053 人の 4.3%にあたる 1,000 人を無作為抽出して調査票を送付し、そのうち 38.7%の 387 人が有効な回答をしたものである。

なお、回答者中の 37.9%は 65 歳以上であるため、回答の集計結果には高齢者の意見が強く表れがちである。したがって、本調査報告書では、設問によっては、特定の世代層の回答を取り出してみている。

性別	%	人数
男性	44.4	172
女性	54.0	209
無回答	1.6	6
合計	100	387

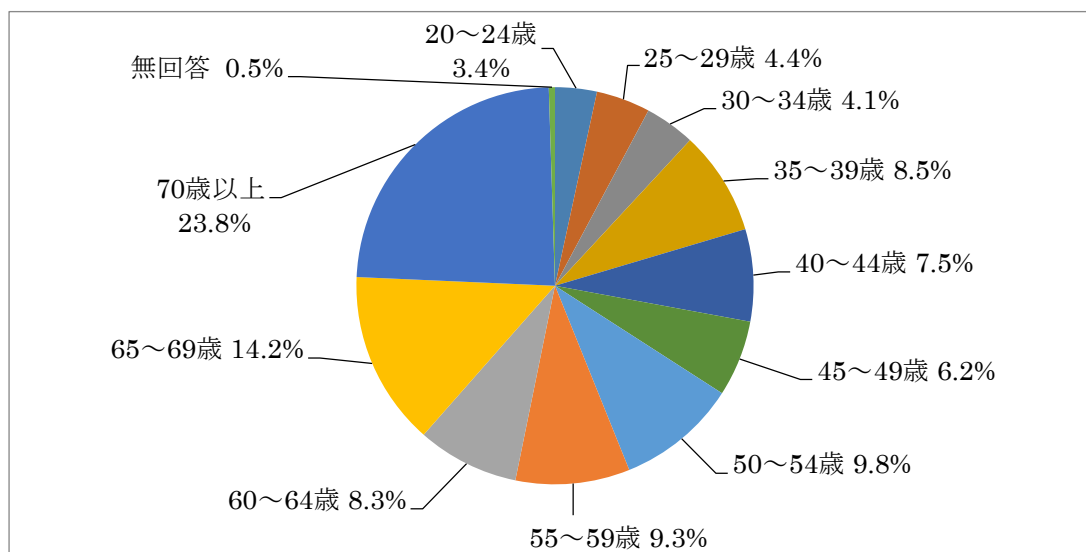
問 1 あなたの性別は。

N = 387



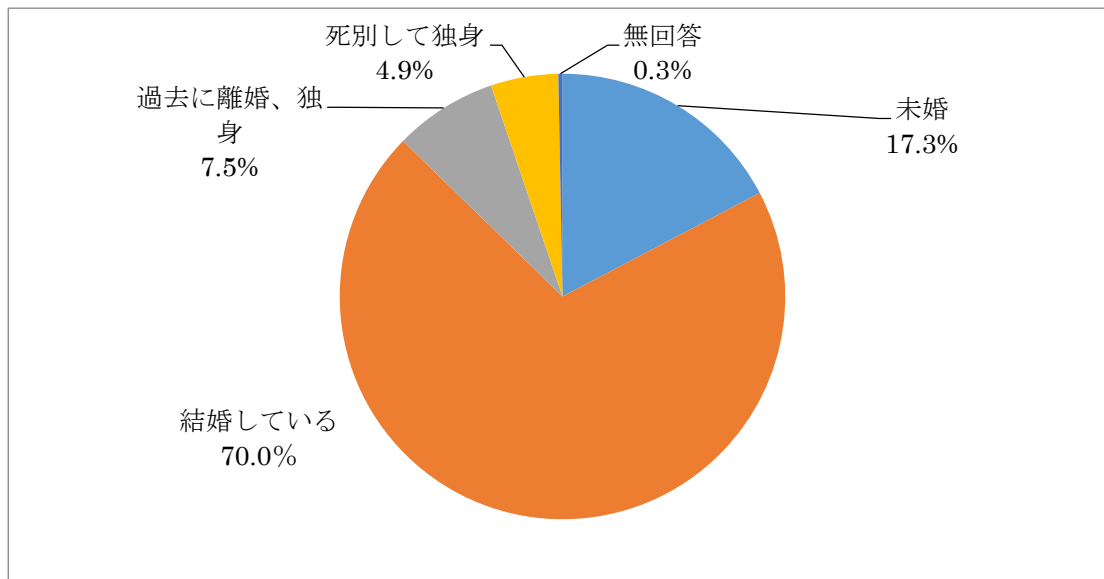
問 2 あなたの年齢は。

N = 387



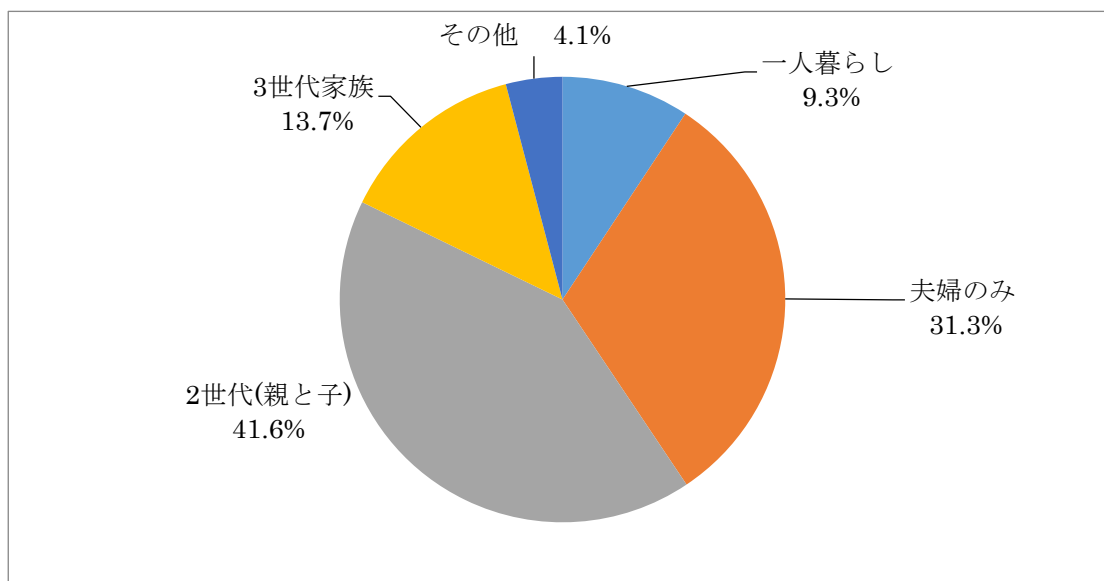
問3 あなたは、現在、結婚していますか（内縁・事実婚を含む）。

N=387



問4 あなたのご家族（同居）の構成は次のどれですか。

N=387



本調査の回答者は、全国統計に比べて、一人暮らしの世帯割合が10%未満と少なめである（22年度全国国勢調査の統計では、一人暮らしは32.4%）。40代までは親と子の二世代の核家族が多く、50歳以上では「夫婦のみ」の同居形態が多くなる。20代では祖父母などとの三世代同居も4分の1ある。

問5 あなたには子ども（同居）がいますか。いる場合、一番年齢の小さな子どもは次のどれですか。

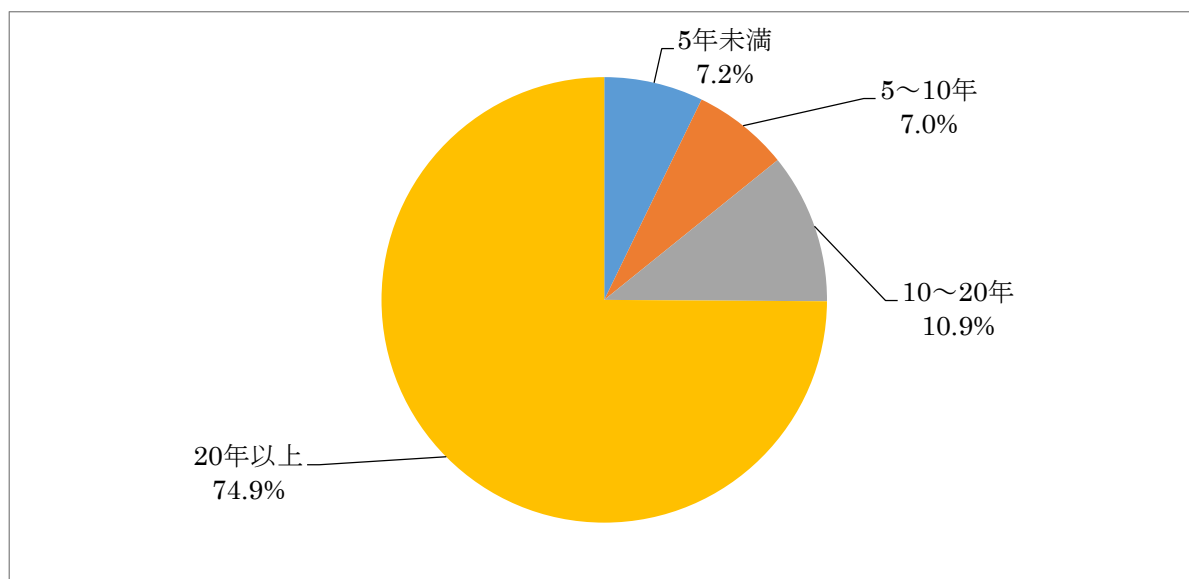
一番年齢の小さな子ども	%	人数
乳幼児（小学校入学前）	7.5	29
小学生	5.2	20
中学生	3.6	14
高校、大学、大学院生	7.5	29
学校卒業済	19.9	77
いない	49.1	190
無回答	7.2	28
合計	100	387

問6 あなたを含めて、同居家族に65歳以上の方がいますか。

	%	人数
いる	49.1	190
いない	50.4	195
無回答	0.5	2
合計	100	387

問7 あなたは、竹原市に住んで何年になりますか。（転出経験のある方は転入後からの年数）

N = 387



回答者の約4分の3が、「20年以上」、竹原市に居住している。

○問7 世代別

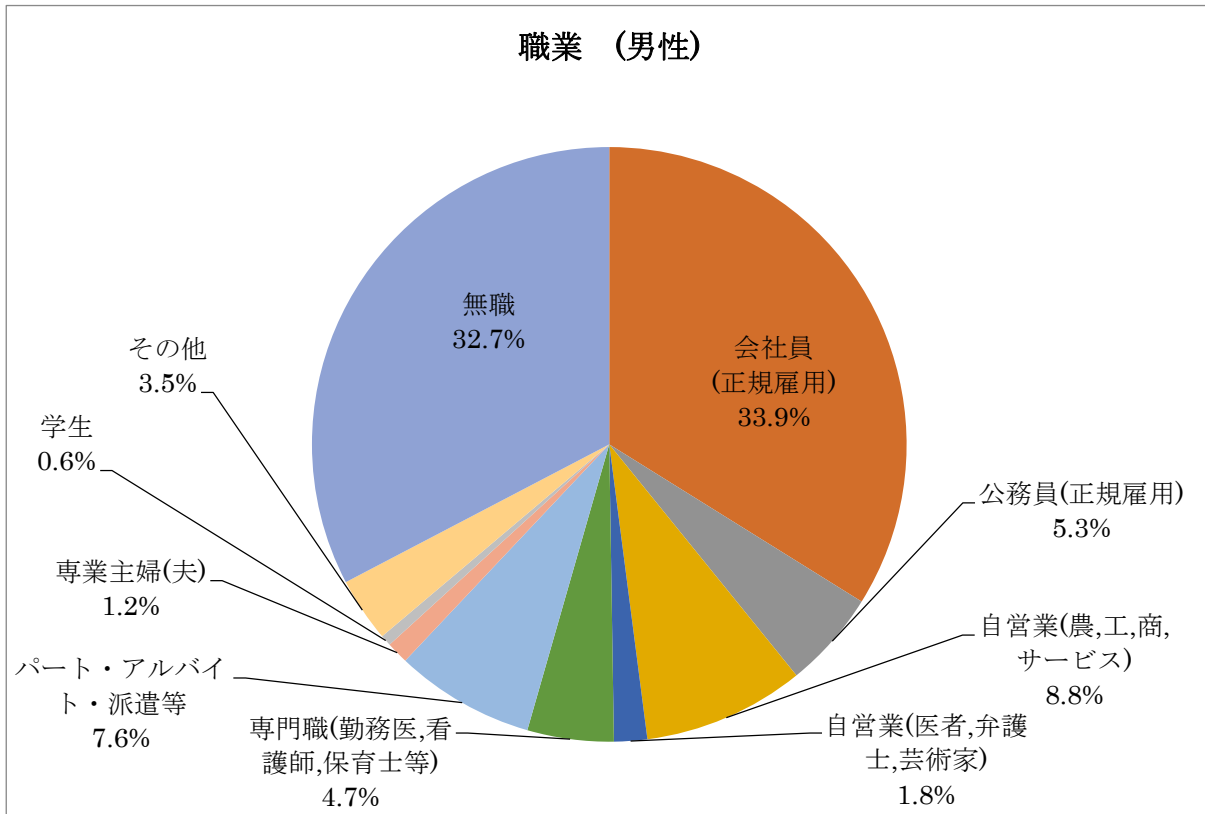
	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
5年未満	16.7	20.4	15.1	5.4	1.2	0.0	7.3 (28)
5~10年	3.3	12.2	11.3	6.8	4.7	5.4	7.0 (27)
10~20	16.7	24.5	26.4	6.8	3.5	3.3	10.9 (42)
20年以上	63.3	42.9	47.2	81.1	90.7	91.3	74.7 (287)
合計 %(人)	100(30)	100(49)	100(53)	100(74)	100(86)	100(92)	100(384)

問8 あなたの現在のご職業に最も近いものはどれですか。

職業	%	人数
会社員(正規雇用)	23.3	90
公務員(正規雇用)	3.4	13
自営業(農,工,商,サービス)	8.0	31
自営業(医者,弁護士,芸術家)	1.3	5
専門職(勤務医,看護師,保育士等)	7.0	27
パート・アルバイト・派遣等	18.0	70
専業主婦・夫	13.2	51
学生	1.3	5
無職	22.0	85
その他	0.5	2
無回答	2.0	8
合計	100	387

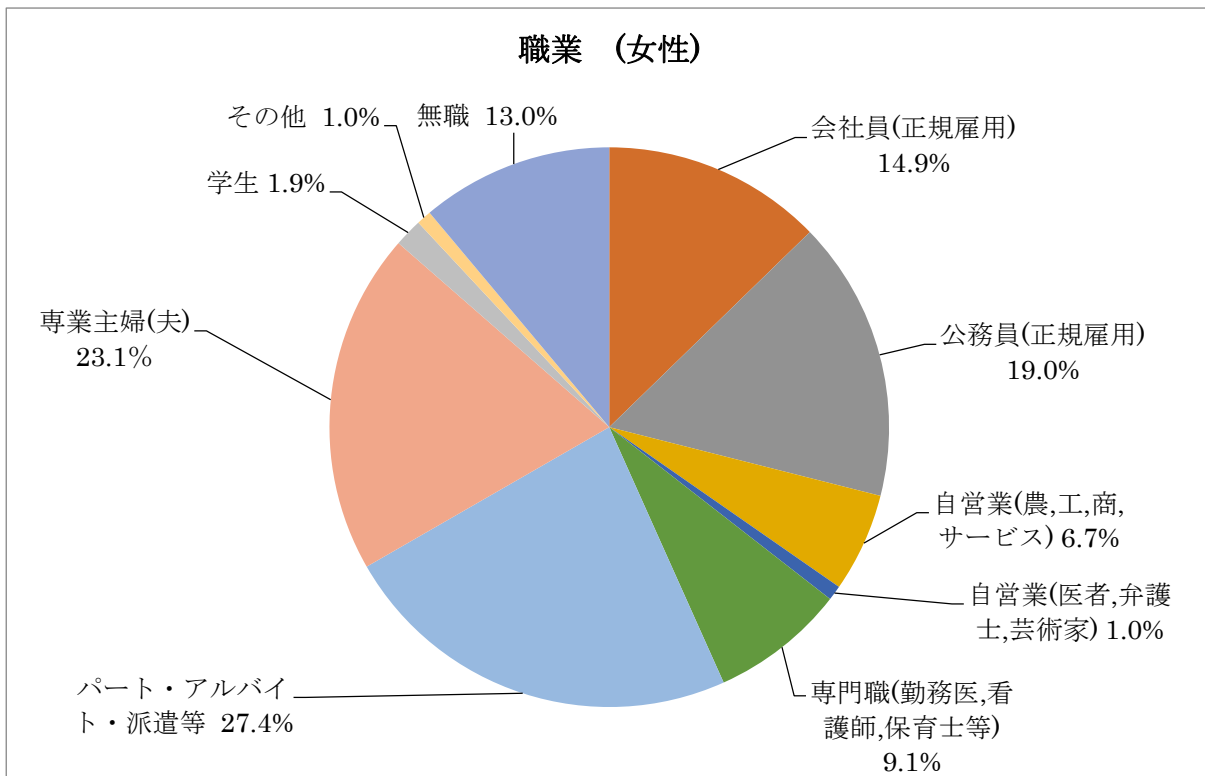
○問 8 男女別

N = 171



問 8 男女別

N = 208



職業では、男性は会社員(正規雇用)がもっとも多く、女性はパート・アルバイト等と、次に会社員

(正規雇用)が多い。回答者全体の中では「無職」や「専業主婦・夫」が比較的多いのは、高齢の回答者の立場を反映していると考えられ、64歳以下の回答者のみをみると、そうした傾向はみられなくなる。

問9 あなたの配偶者・パートナーの現在のご職業に最も近いものはどれですか。

職 業	%	人数
会社員(正規雇用)	15.2	59
公務員(正規雇用)	1.8	7
自営業(農,工,商,サービス)	6.2	24
自営業(医者,弁護士,芸術家)	0.5	2
専門職(勤務医,看護師,保育士等)	3.6	14
パート・アルバイト・派遣等	9.3	36
専業主婦・夫	12.1	47
学生	0	0
無職	16.3	63
その他	0.5	2
配偶者なし	33.6	130
無回答	0.8	3
合計	99.9	387

○問9 男女別

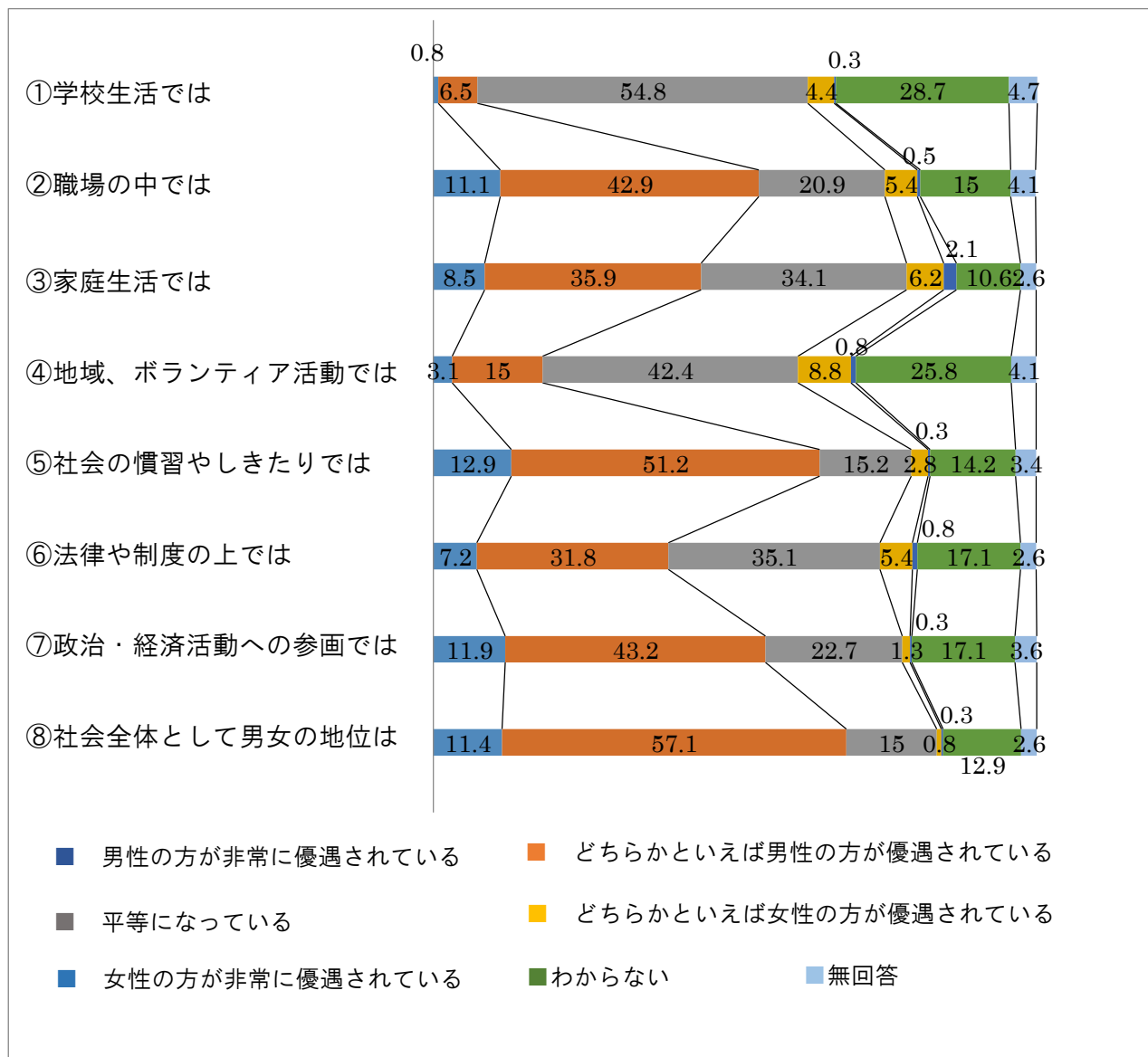
	男性回答者の 配偶者		女性回答者の 配偶者	
	%	人数	%	人数
会社員(正規雇用)	8.6	10	36.6	49
公務員(正規雇用)	0.9	1	4.5	6
自営業(農,工,商,サービス)	5.2	6	11.9	16
自営業(医者,弁護士,芸術家)	0.0	0	1.5	2
専門職(勤務医,看護師,保育士等)	8.6	10	3.0	4
パート・アルバイト・派遣等	19.8	23	9.7	13
専業主婦・夫	32.8	38	6.0	8
その他	1.7	2	0.0	0
無職	22.4	26	26.9	36
合計(人)	100	116	100.1	134

「配偶者の職業」も、同じく男女で違いがあり、男性回答者の妻は、「主婦」と「無職」がもっとも多く、女性回答者の配偶者は、「会社員」「無職」が多い。

2. 男女平等・役割分担について

問 10 次にあげるような分野で、男性と女性の地位は平等になっていると思いますか。

単位：% N=387



「男女平等かどうか」の認識を領域別にたずねた問 10 では、回答者が最も多く「平等になっている」と考えるのは「学校生活」で(54.8%)、次いで「地域、ボランティア活動」(42.4%)である。

○問 10 「平等になっている」と答えた人

上段：％ 下段：人 N=387	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
①学校生活では	0.8 (3)	6.5 (25)	54.8 (212)	4.4 (17)	0.3 (1)	28.7 (111)	4.7 (18)
②職場の中では	11.1 (43)	42.9 (166)	20.9 (81)	5.4 (21)	0.5 (2)	15.0 (58)	4.1 (16)
③家庭生活では	8.5 (33)	35.9 (139)	34.1 (132)	6.2 (24)	2.1 (8)	10.6 (41)	2.6 (10)
④地域、ボランティア活動では	3.1 (12)	15.0 (58)	42.4 (164)	8.8 (34)	0.8 (3)	25.8 (100)	4.1 (16)
⑤社会の慣習やしきたりでは	12.9 (50)	51.2 (198)	15.2 (59)	2.8 (11)	0.3 (1)	14.2 (55)	3.4 (13)
⑥法律や制度の上では	7.2 (28)	31.8 (123)	35.1 (136)	5.4 (21)	0.8 (3)	17.1 (66)	2.6 (10)
⑦政治・経済活動への参画では	11.9 (46)	43.2 (167)	22.7 (88)	1.3 (5)	0.3 (1)	17.1 (66)	3.6 (14)
⑧社会全体として男女の地位は	11.4 (44)	57.1 (221)	15.0 (58)	0.8 (3)	0.3 (1)	12.9 (50)	2.6 (10)

単位：％ N=387	全国(28年度)	前回 竹原市	今回 (再掲)
①学校生活では	66.4	55.1	54.8
②職場の中では	29.7	18.3	20.9 ↑
③家庭生活では	47.4	32.6	34.1 ↑
④地域、ボランティア活動では *	47.2	40.7	42.4 ↑
⑤社会の慣習やしきたりでは *	21.8	14.1	15.2 ↑
⑥法律や制度の上では	40.8	38.6	35.1 ↓
⑦政治・経済活動への参画では *	18.9	21.7	22.7 ↑
⑧社会全体としては	21.1	19.8	15 ↓

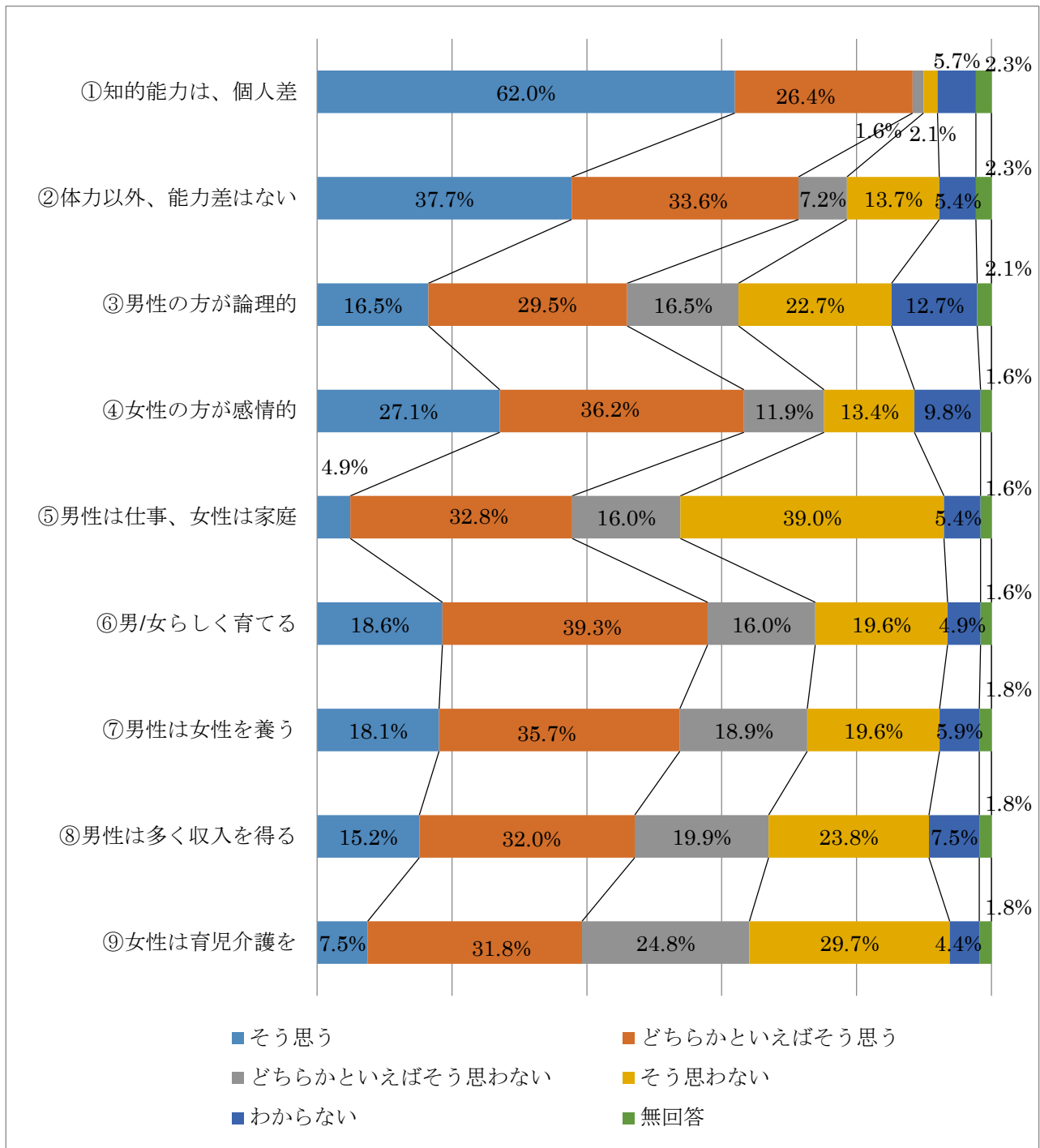
全国調査では、④「自治会やPTAなどの地域活動の場では」 ⑤「社会通念・慣習・しきたり」
⑦「政治の場では」とたずねている。

○問 10 男女別

単位：％ N＝男性 172 女性 209		男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
①学校生活では	男性	0	5.2	57.0	3.5	0.6	29.7	4.1
	女性	1.4	7.7	53.6	4.8	0	27.8	4.8
②職場の中では	男性	5.2	44.8	25.6	8.1	0	12.2	4.1
	女性	16.3	41.6	17.2	2.9	0.5	17.7	3.8
③家庭生活では	男性	4.7	29.7	41.9	8.7	2.3	9.3	3.5
	女性	12	41.1	28.2	3.8	1.4	11.5	1.9
④地域、ボランティア活動では	男性	0.6	12.2	48.3	8.1	1.7	25.6	3.5
	女性	5.3	17.2	37.3	9.1	0	26.3	4.8
⑤社会の慣習やしきたりでは	男性	5.2	50.6	19.2	4.1	0.6	16.9	3.5
	女性	19.6	50.7	12.4	1.4	0	12.4	3.3
⑥法律や制度の上では	男性	2.3	26.7	46.5	5.8	1.7	14	2.9
	女性	11.5	35.4	26.3	4.8	0	20.1	1.9
⑦政治・経済活動への参加では	男性	4.7	44.8	30.2	2.3	0.6	13.4	4.1
	女性	17.7	40.7	17.2	0.5	0	20.6	3.3
⑧社会全体として男女の地位は	男性	4.7	58.1	21.5	1.7	0.6	10.5	2.9
	女性	17.2	56	9.6	0	0	14.8	2.4

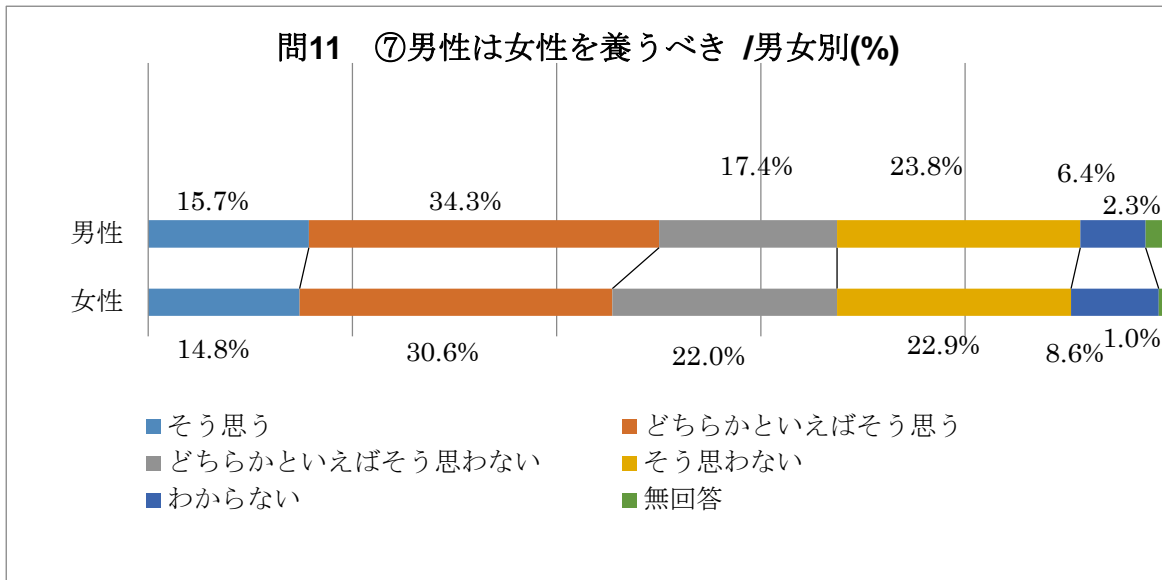
問 11 男女の意識の問題についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。

N = 387



○問 11

上段：％ 下段：人 N=387	そう思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	そう思わない	わからない	無回答
①知的能力は，男女の差より個人差の方が大きい	62.0 (240)	26.4 (102)	1.6 (6)	2.1 (8)	5.7 (22)	2.3 (9)
②体力が必要ない仕事では，男女に能力の差はそれほどない	37.7 (146)	33.6 (130)	7.2 (28)	13.7 (53)	5.4 (21)	2.3 (9)
③ものごとを論理的に考えるのは，男性の方が優れている	16.5 (64)	29.5 (114)	16.5 (64)	22.7 (88)	12.7 (49)	2.1 (8)
④女性の方が，感情的である	27.1 (105)	36.2 (140)	11.9 (46)	13.4 (52)	9.8 (38)	1.6 (6)
⑤男性は仕事，女性は家庭	4.9 (19)	32.8 (127)	16.0 (63)	39.0 (151)	5.4 (21)	1.6 (6)
⑥男の子は男らしく，女の子は女らしく育てるのがよい	18.6 (72)	39.3 (152)	16.0 (62)	19.6 (76)	4.9 (19)	1.6 (6)
⑦男性は女性を養う必要がある	18.1 (70)	35.7 (138)	18.9 (73)	19.6 (76)	5.9 (23)	1.8 (7)
⑧男性は女性より多く収入を得る必要がある	15.2 (59)	32.0 (124)	19.9 (77)	23.8 (92)	7.5 (29)	1.8 (6)
⑨女性は育児・介護を積極的に行う必要がある	7.5 (29)	31.8 (123)	24.8 (96)	29.7 (115)	4.4 (17)	1.8 (7)



○問 11 男女別

単位：% N = 男性 172 女性 209		そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
①知的能力は、男女の差より個人差が大きい	男性	66.9	21.5	2.3	1.7	4.7	2.9
	女性	58.9	29.7	1.0	1.9	6.7	1.9
②体力仕事以外、男女に能力差はそれほどない	男性	43.6	27.9	7.0	15.1	3.5	2.9
	女性	32.5	38.8	6.7	12.9	7.2	1.9
③男性の方が論理的	男性	12.8	31.4	17.4	21.5	12.8	4.1
	女性	19.6	26.8	16.3	23.9	12.9	0.5
④女性の方が、感情的	男性	22.7	33.7	14.0	14.0	12.8	2.9
	女性	30.1	38.8	9.6	13.4	7.7	0.5
⑤男性は仕事、女性は家庭	男性	4.7	36.6	15.1	34.9	6.4	2.3
	女性	5.3	29.7	15.8	43.1	4.8	1.4
⑥男らしく、女らしく育てるのがよい	男性	22.7	41.9	14.0	15.7	3.5	2.3
	女性	14.8	37.3	17.2	23.4	6.2	1.0
⑦男性は女性を養う必要がある	男性	15.7	34.3	17.4	23.8	6.4	2.3
	女性	14.8	30.6	22.0	22.9	8.6	1.0
⑧男性は女性より多く収入を得る必要がある	男性	15.7	34.3	17.4	23.8	6.4	2.3
	女性	14.8	30.6	22.0	23.0	8.6	1.0
⑨女性は育児・介護を積極的にやる必要がある	男性	7.6	33.7	23.3	26.2	7.0	2.3
	女性	7.7	29.7	26.3	32.5	2.4	1.4

⑦「男性は女性を養う必要がある」のみ、男女で回答の傾向に差が見られ、男女とも「どちらかといえばそう思う」が最多なもの、女性の方が「そう思わない」割合が少し多めとなっている。(p<.01)

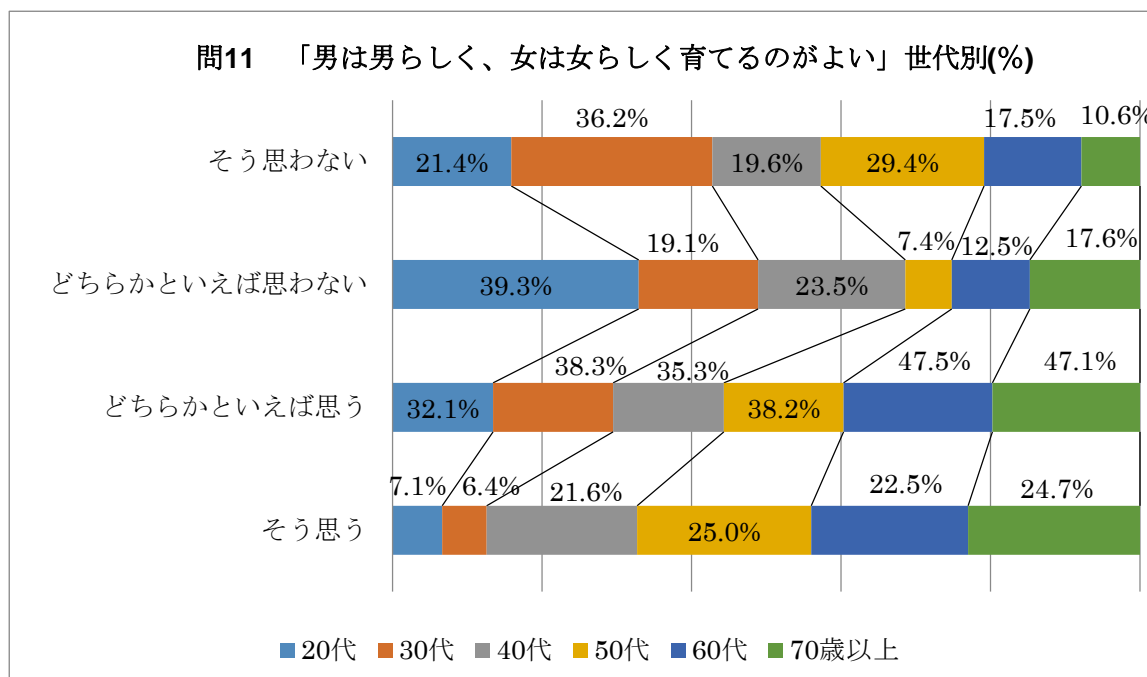
「①知的能力は、男女の差より個人差の方が大きい」については、全体的に同意する回答者が多いが、職業別で、少し差が見られる。「公務員」では92.3%が「そう思う」であるのに比べて、「パート・アルバイト・派遣等」では「そう思う」は67.2%に減り、「どちらかといえばそう思う」31.1%の方が少し増え、「自営業」のみが「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」のどちらかを選んだ人が合わせて16.7%となっている。

○問 11 「①知的能力は、男女の差より個人差の方が大きい」 職業別

単位：% N=356	会社員	公務員	自営業 *	専門職 *	パート、 派遣等	その他	合計
そう思う	73.3	92.3	70.0	74.2	67.2	59.4	67.5
どちらかといえばそう思う	23.3	7.7	13.3	19.4	31.1	38.3	28.5
そう思わない + どちらかといえば思わない	3.5	0.0	16.7	6.5	1.6	2.3	4.0
合計	100.1	100	100	100	100	100	100

*ここでの「専門職」には、開業医や弁護士、芸術家も含む分類を用いている。「自営業」は、農・工・サービス自営のみを指す。以降の分析でも同じ。

N=362



○問 11 ⑥「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」 世代別

単位：% N=362	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
そう思わない	21.4	36.2	19.6	29.4	17.5	10.6	21.2
どちらかといえば思わない	39.3	19.1	23.5	7.4	12.5	17.6	17.3
どちらかといえばそう思う	32.1	38.3	35.3	38.2	47.5	47.1	41.5
そう思う	7.1	6.4	21.6	25.0	22.5	24.7	20.1

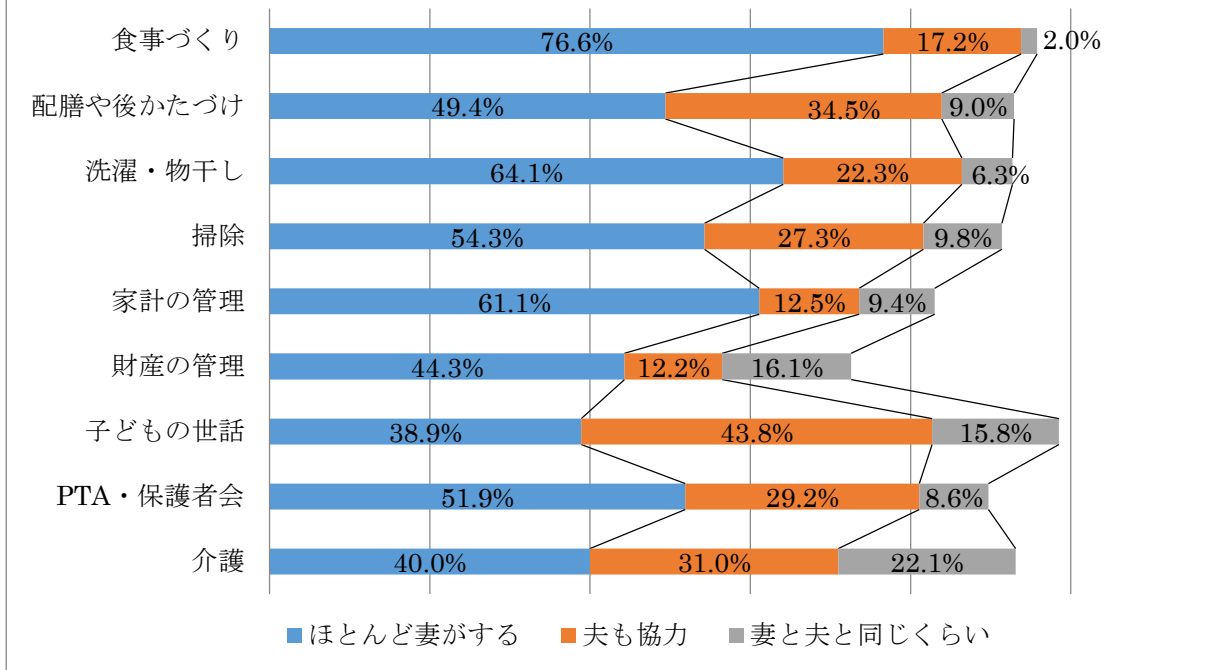
世代別では、「⑥男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」の項目についてのみ、意見の差が見られた。20代、30代までは、「そう思う」が少ないが、年齢があがるにつれ、同意する人が増える。

問 12 (配偶者・パートナーのいる方のみ)

日常的な家事・仕事等の役割分担についてあなたの現状に最も近いものをお答えください。

左側：% 右側：人	ほとんど妻がする		妻が主で夫が協力		妻と夫と同じくらい		夫が主で妻が協力		ほとんど夫がする		その他		合計
	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	
食事づくり	76.6	(196)	17.2	(44)	2.0	(5)	1.2	(3)	1.6	(4)	1.6	(4)	(256)
配膳や片づけ	49.4	(126)	34.5	(88)	9.0	(23)	3.1	(8)	2.4	(6)	1.6	(4)	(255)
洗濯・物干し	64.1	(164)	22.3	(57)	6.3	(16)	3.1	(8)	3.5	(9)	0.8	(2)	(256)
掃除	54.3	(139)	27.3	(70)	9.8	(25)	2.7	(7)	4.7	(12)	1.2	(3)	(256)
家計の管理	61.1	(157)	12.5	(32)	9.4	(24)	8.2	(21)	5.5	(14)	2.7	(7)	(255)
財産の管理	44.3	(113)	12.2	(31)	16.1	(41)	8.2	(21)	15.7	(40)	3.5	(9)	(255)
子どもの世話	38.9	(97)	43.8	(111)	15.8	(40)	0.5	(1)	1.0	(2)	—	(0)	(203)
PTA・保護者会	51.9	(145)	29.2	(74)	8.6	(22)	5.4	(14)	4.9	(12)	—	(0)	(185)
介護	40.0	(111)	31.0	(83)	22.1	(57)	3.4	(9)	3.4	(9)	—	(0)	(145)

問12 家事の分担 (%)



* 「子どもの世話」「PTA」「介護」については、「その他」の選択肢を該当しない回答者が選んだ可能性が高いので、「その他」を含まない%値を掲載している。

「食事づくり」「洗濯」「掃除」「家計の管理」「PTA、保護者会出席」「配膳や後片付け」についてはほぼ50%かそれ以上の回答者が「ほとんど妻がする」と答えている。

○問12 「財産の管理」世代別

%(人)	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
主に妻	57.1	70.8	73.5	63.2	64.3	38.9	58.4
妻と夫同じ	28.6	8.3	2.9	10.5	15.7	29.2	16.7
主に夫	14.3	20.8	23.5	26.3	20.0	31.9	24.9
合計	100(7)	100(24)	100(34)	100(38)	100(70)	100(72)	100(245)

「財産の管理」では世代差(p<.05)がみられ、70歳以上だけが「主に夫」(31.9%)が少し多くなる。

○問12 「食事づくり」職業別

%(人)	会社員	公務員	自営業	専門職	パート	その他	合計
主に妻	61.1	57.1	82.6	68.4	83.3	84.5	78.1(196)
主に妻, 夫協力	29.6	14.3	17.4	21.1	12.5	11.7	17.1(43)
妻と夫同じ	1.9	0.0	0.0	5.3	2.1	1.9	2.0(5)
主に夫, 妻協力	0	28.6	0.0	0	0.0	1.0	1.6(4)
主に夫	3.7	0.0	0.0	5.3	0.0	1.0	1.6(4)
合計	100(52)	100(7)	100(23)	100(19)	100(47)	100(103)	100(251)

「食事を作る」で職業の差(p<.01)がみられ、「会社員」「公務員」「専門職」の家庭の方が夫が協力することが多く、「自営業」「パート、アルバイト、派遣等」「その他(無職など)」が8割以上の家庭で「主に妻」

となっている。

○問 12 (有職者のみ)

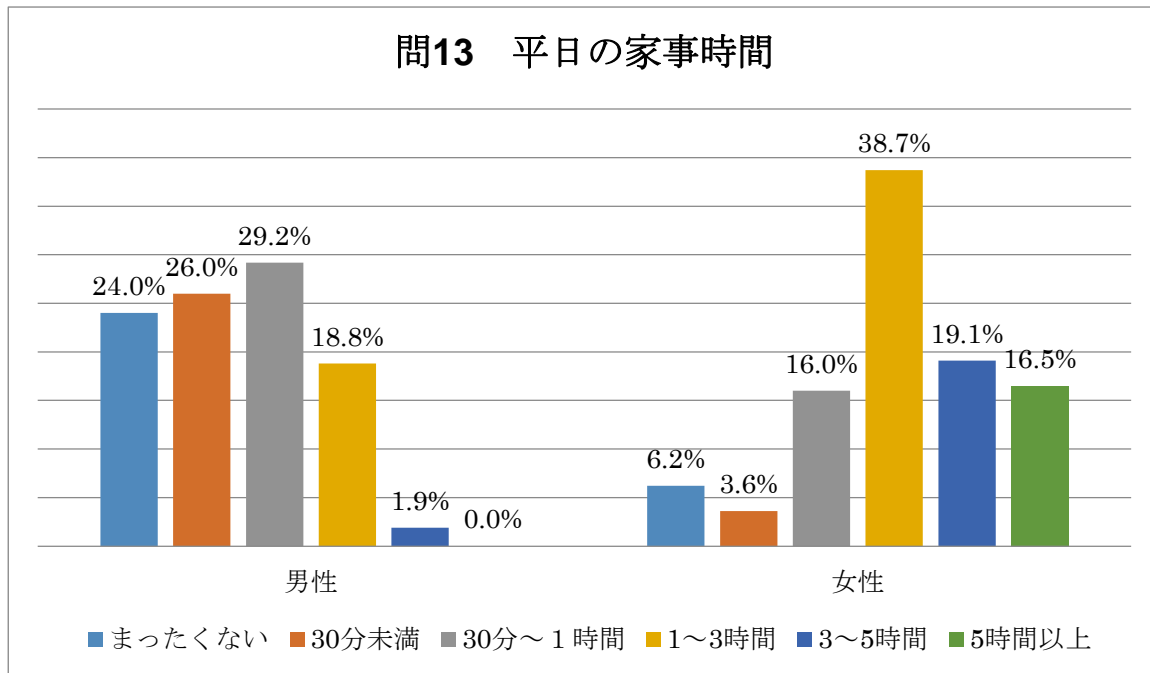
% (人)	妻が ほとんど		夫が 協力が 主で		い 同 じ く ら		妻 が 協 力		夫 が 主 で		夫 が 主 で		ほ と ん ど		そ の 他		合 計
食事づくり	72.0	(108)	20.7	(31)	2.0	(3)	1.2	(2)	2.0	(3)	2.0	(3)	2.0	(3)			(150)
配膳や片づけ	46.3	(69)	36.9	(55)	8.7	(13)	3.4	(5)	2.7	(4)	2.0	(3)					(149)
洗濯・物干し	64.0	(96)	21.3	(32)	6.7	(10)	4.0	(6)	3.3	(5)	0.7	(1)					(150)
掃除	58.0	(87)	24.7	(37)	10.7	(16)	1.3	(2)	4.0	(6)	1.3	(2)					(150)
家計の管理	63.3	(95)	11.3	(17)	8.7	(13)	5.3	(8)	6.7	(10)	4.7	(7)					(150)
財産の管理	51.8	(73)	14.9	(21)	10.6	(15)	7.1	(10)	15.6	(22)	0						(141)
子どもの世話	35.0	(42)	45.0	(54)	19.2	(23)	0.8	(1)	0		0						(120)
PTA・保護者会	51.3	(58)	24.8	(28)	12.4	(14)	7.1	(8)	4.4	(5)	0						(113)
介護	42.3	(33)	25.6	(20)	21.8	(17)	6.4	(5)	3.8	(3)	0						(78)

問 13 あなたが家事(食事のしたくや洗濯, 掃除など), 育児(子どもの食事・入浴の世話や送迎など), 介護(夫婦の親族の日常生活の世話など)にたずさわる時間の合計は, 1日あたりどれくらいですか。

単位: % N=387	ない	30分未満	30分~1時 間	1~3時間	3~5時間	5時間以上	無回答
平日	13.2	12.1	19.6	27.4	10.6	8.5	8.5
休日	10.9	9.6	16.8	27.1	10.6	14.0	11.1

○問 13 (男女別)

単位: % N=男性 154 女性 194		ない	30分未満	30分~ 1時間	1~ 3時間	3~ 5時間	5時間 以上
平日	男性	24.0	26.0	29.2	18.8	1.9	0
	女性	6.2	3.6	16.0	38.7	19.1	16.5
休日	男性	19.5	22.8	27.5	20.8	4.7	4.7
	女性	5.8	1.6	12.7	37.6	18.0	24.3



家事時間は、平日・休日とも「1～3時間」と答えた回答者が多いが、男女・世代別で大きく異なる。

男性は、平日は 24.0%が「まったくない」つまり、全く家事をしないと答え、最も多い時間は「30分から1時間」が約3割、次いで「30分未満」が26.0%である。つまり、79.2%の男性は、平日は家事をしても1時間未満といえる。それに比べ、女性は、最も多いのは、平日は「1～3時間」(38.7%)、次いで「3～5時間」の19.1%である。休日は、全く家事をしない男性の割合は少し下がるが、それでも約7割は全く家事をしないか、やっても1時間未満である。女性の方は、最多は「1～3時間」であるが、約4分の1の女性は、休日には「5時間以上」家事をすると答えている (p<.01)。

働き盛りかどうか、子育て中かどうかなど、ライフステージの段階によって、必要な家事は異なることが考えられるので、64歳以下の世代別、男女別に平日の家事時間をみた。

男性では、20代、30代は「1~3時間」家事をする層が最も多く、50代では「まったくしない」層が最も多くなる(30%)。

女性では、20代がすべての性別と世代の中でもっとも「全く家事をしない」層が多いが(35.7%)、30代以上では、「まったくしない」はほとんどいなくなる。最も長く家事をしているのは30代女性で、50%が平日に3時間以上で、うち20%の人は5時間以上家事をしている。

○問 13 64歳以下のみ 男女・世代別 (平日の家事時間)

単位：% (人)

男 性	20代	30代	40代	50代	60-64歳
まったくしない	20.0	18.8	21.1	30.0	18.8
30分未満	0.0	18.8	26.3	26.7	50.0
30分~1時間	30.0	25.0	26.3	23.3	25.0
1時間~3時間	40.0	37.5	21.1	20.0	6.3
3時間~5時間	10.0	0	5.3	0.0	0.0
合 計	100(10)	100(16)	100(19)	100(30)	100(16)

単位：% (人)

女 性	20代	30代	40代	50代	60-64歳
まったくしない	35.7	3.3	0	0	6.7
30分未満	14.3	3.3	6.7	2.7	0
30分~1時間	14.3	20	23.3	21.6	13.3
1~3時間	14.3	23.3	36.7	48.6	40
3~5時間	0	30	20	18.9	20
5時間以上	21.4	20	13.3	8.1	20
合 計	100(14)	100(30)	100(30)	99.9(37)	100(15)

仕事を持っている人だけみると、平日は、有職男性は四分之三は「まったくない」か、やっても1時間以内、「1～3時間」が21.6%であり、それ以上家事に時間を割く人はほとんどいない。

有職女性は、「30分～1時間」「1時間～3時間」のところに約62%が集中する。しかし平日でも有職女性の約三割は3時間以上家事をしている。

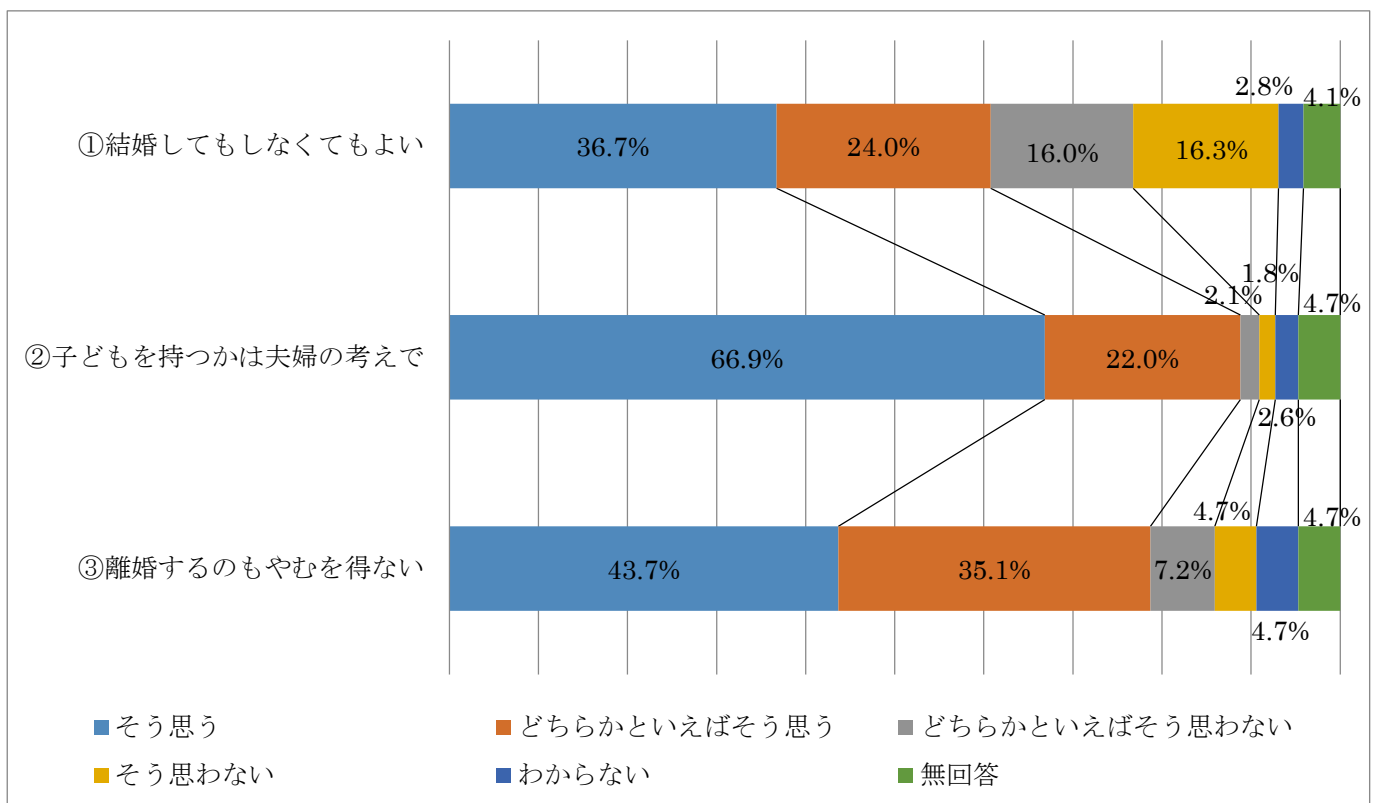
休日になると、有職男性では、長めに家事をする人が少し増える。有職女性も、さらに長めに家事に時間を費やしている。

○問 13 有職者の男女別 (平日と休日の家事時間)

% (人)	平 日			休 日		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計
まったくない	24.7 (24)	3.4 (4)	13.0 (28)	16.1 (15)	3.4 (4)	9.0 (19)
30分未満	25.8 (25)	4.2 (5)	13.9 (30)	21.5 (20)	0.9 (1)	10.0 (21)
30分～1時間	25.8 (25)	22.7 (27)	24.1 (52)	24.7 (23)	13.7 (16)	18.6 (39)
1時間～3時間	21.6 (21)	39.5 (47)	31.5 (68)	23.7 (22)	37.6 (44)	31.4 (66)
3～5時間	2.1 (2)	16.0 (19)	9.7 (21)	6.5 (6)	19.7 (23)	13.8 (29)
5時間以上	0.0	14.3 (17)	7.9 (17)	7.5 (7)	24.8 (29)	17.1 (36)
合計(n)	100 (97)	100 (119)	100 (216)	100(93)	100(117)	100 (210)

問 14 あなたは結婚や家庭についてどう思いますか。各項目についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。

N=387



問 14

%(人)	そう思う	思う どちらかといえばそう	思わない どちらかといえばそう	そう思わない	わからない	無回答	合計
①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	36.7% (142)	24.0 (93)	16.0 (62)	16.3 (63)	2.8 (11)	4.1 (16)	(387)
②子どもを持つことやその数は、周囲の考えより夫婦の考えを優先するべき	66.9 (259)	22.0 (85)	2.1 (8)	1.8 (7)	2.6 (10)	4.7 (18)	(387)
③結婚しても事情があれば離婚するのもやむを得ない	43.7 (169)	35.1 (136)	7.2 (28)	4.7 (18)	4.7 (18)	4.7 (18)	(387)

「②子どもを持つことやその数は、周囲の考えより夫婦の考えを優先するべき」は88.9%の人が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答え、「③結婚しても事情があれば離婚するのもやむを得ない」については、78.8%が同様に回答している。もっとも意見が分かれた「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」について、6割がどちらかといえば賛成している。

○問 14 「①結婚はしてもしなくてもよい」世代別

%(人)	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
そう思う	57.7	46.8	45.1	44.3	29.4	28.9	38.5
どちらかといえばそう思う	15.4	29.8	39.2	24.3	23.5	17.8	24.7
どちらかといえばそう思わない	3.8	8.5	9.8	12.9	22.4	26.7	16.8
そう思わない	11.5	12.8	5.9	14.3	22.4	24.4	17.1
わからない	11.5	2.1	0.0	4.3	2.4	2.2	3.0
合計	100 (26)	100 (47)	100 (51)	100 (70)	100 (85)	100 (90)	100 (369)

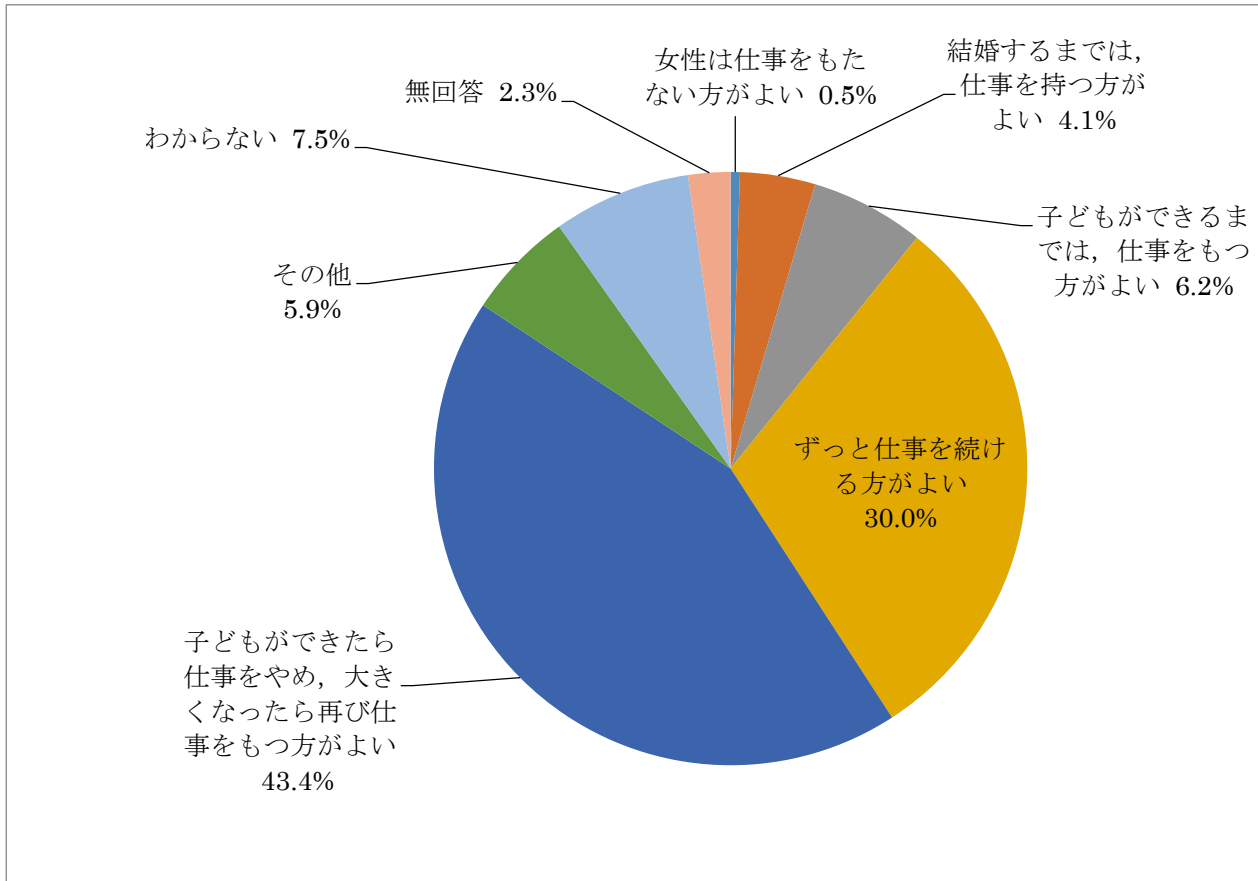
現在未婚の人と、過去に離婚して現在独身の人が、「個人の自由で、結婚してもしなくてもよい」に賛成する傾向が男女問わず強い(p<.01)。

○問 14 婚姻状態別

%(人)	未婚	既婚	離婚, 独身	死別, 独身
そう思う	60.0	31.5	52.0	44.4
どちらかといえばそう思う	21.7	24.3	40.0	27.8
どちらかといえばそう思わない	5.0	21.0	4.0	11.1
そう思わない	5.0	22.1	4.0	0
わからない	8.3	1.1	0	16.7
合計	100(60)	100(267)	100(25)	100(18)

3. 就労・働き方について

問 15 一般的に女性が仕事をもつことについて、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。 N=387



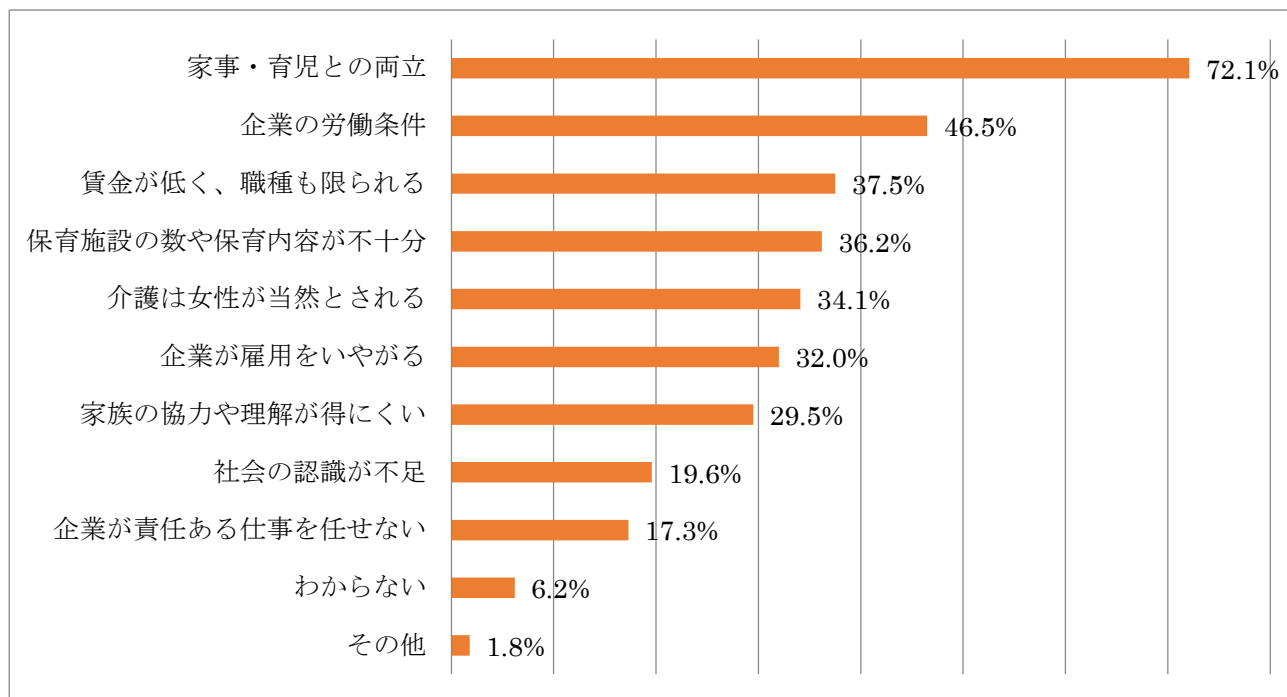
	%	(人)
女性は仕事をもたない方がよい	0.5	(2)
結婚するまでは、仕事をもつ方がよい	4.1	(16)
子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	6.2	(24)
ずっと仕事を続ける方がよい	30.0	(116)
子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	43.4	(168)
その他	5.9	(23)
わからない	7.5	(29)
無回答	2.3	(9)
合計	100	(387)

「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が最も多く(43.4%)、次に「ずっと仕事を続ける方がよい」(30.0%)が多かった。この問いに関しては、性別、世代、職業などで回答傾向の違いが見られなかった。

問 16 あなたは、女性が働くことを難しくしていることには、どんな要因があると思いますか。

(複数回答)

N = 387



○問 16 男女別・順位 (複数回答)

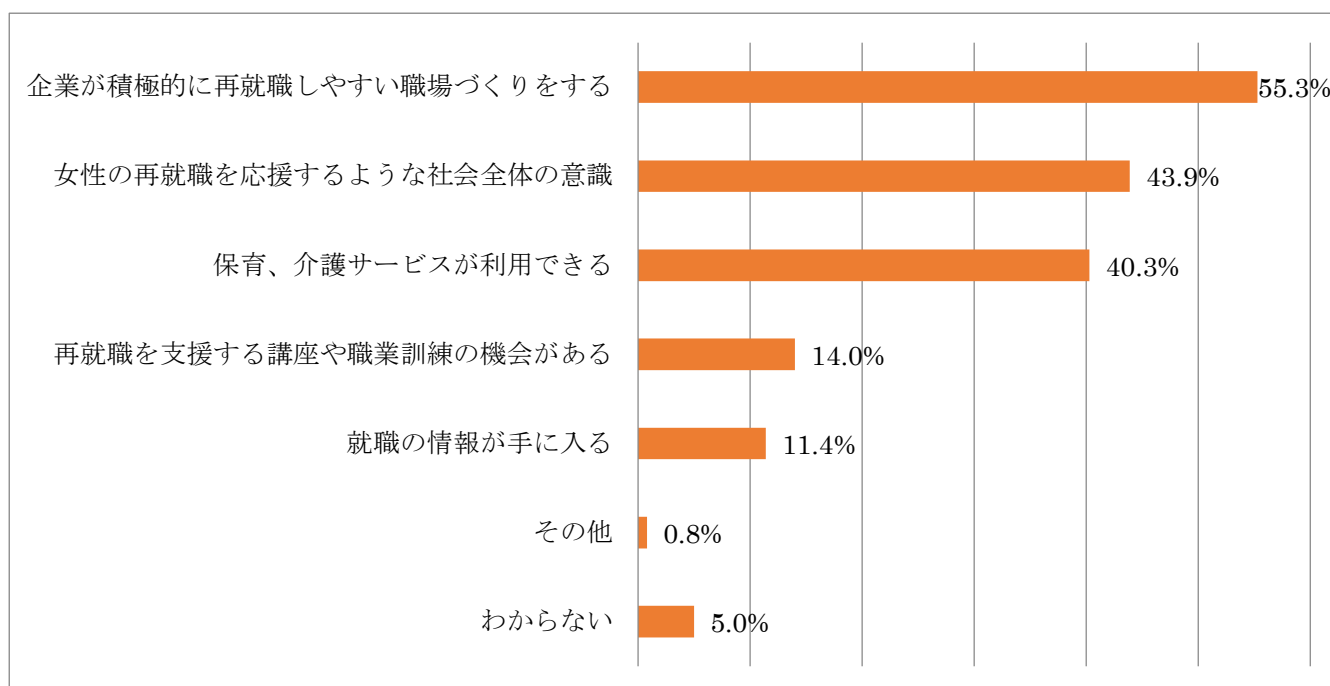
N = 387

	全体		女性		男性	
	%	(人)	順位	%	順位	%
家事・育児との両立	72.1	(279)	①	69.4	①	74.4
企業の労働条件が整っていない	46.5	(180)	②	49.3	②	43.6
男性に比べて賃金が低く、職種も限られている	37.5	(145)	③	39.7	④	34.3
保育施設の数や保育内容が十分でない	36.2	(140)	⑤	32.5	③	40.7
高齢者や病人の介護は女性が当然とされている	34.1	(132)	④	38.2		
企業が結婚・出産した女性の雇用をいやがる傾向	32.0	(124)	⑥	32.1	⑤	32.0
家族の協力や理解が得にくい	29.5	(114)	⑦	31.6		
女性の職業に対する社会の認識が不足している	19.6	(76)				
企業が女性に責任ある仕事を任せない	17.3	(67)				
わからない	6.2	(24)				
その他	1.8	(7)				

「家事・育児との両立」が最も高く (72.1%)、次いで「企業の労働条件が整っていない」(46.5%)となっている。

問 17 育児，介護，家事などにより，仕事をやめた女性が再就職をしやすくなるためには，どんなことが必要だと思いますか。（複数回答）

N = 387



(複数回答)

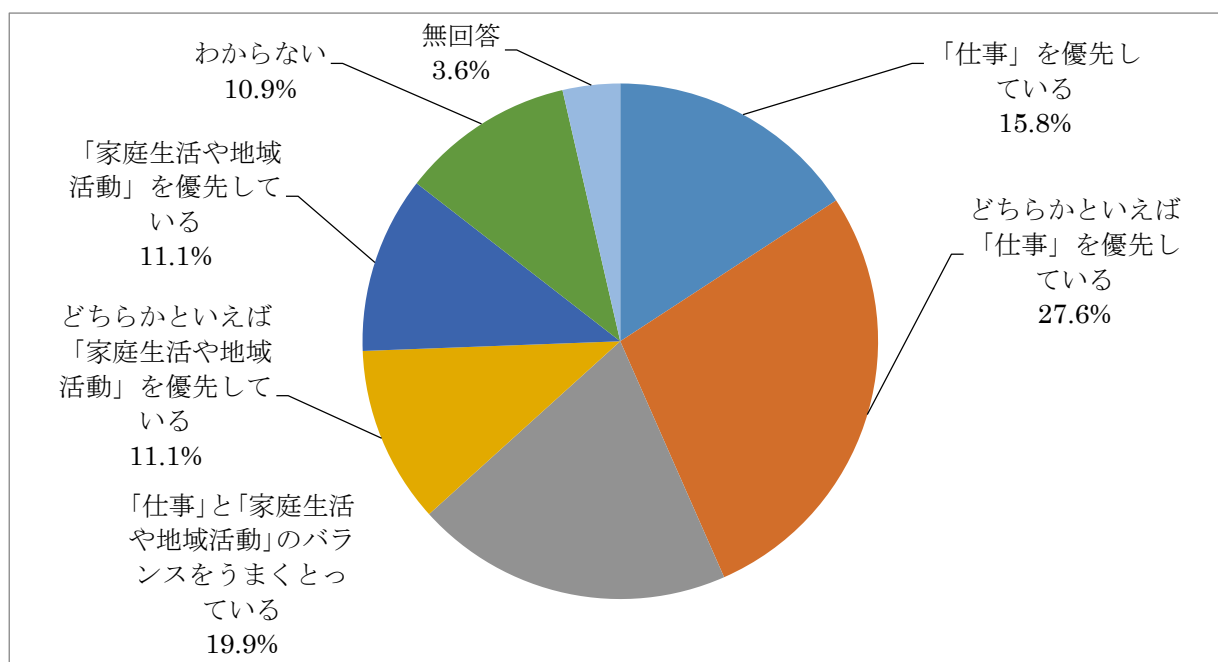
N = 387

	%	(人)
企業が積極的に再就職しやすい職場づくりをする	55.3	(214)
女性の再就職を応援するような社会全体の意識	43.9	(170)
保育、介護サービスが利用できる	40.3	(156)
再就職を支援する講座や職業訓練の機会がある	14.0	(54)
就職の情報が手に入る	11.4	(44)
わからない	5.0	(18)
その他	0.8	(3)

「企業が積極的に再就職しやすい職場づくりをする」「女性の再就職を応援するような社会全体の意識」「保育、介護サービスが利用できる」が4割以上となっている。

問 18 生活の中での「仕事」と「家庭生活や地域活動」の優先度について、あなたの現状に最も近いものをお答えください。

N = 387



	%	人
「仕事」を優先している	15.8	61
どちらかといえば「仕事」を優先している	27.6	107
「仕事」と「家庭生活や地域活動」のバランスをうまくとっている	19.9	77
どちらかといえば「家庭生活や地域活動」を優先している	11.1	43
「家庭生活や地域活動」を優先している	11.1	43
わからない	10.9	42
無回答	3.6	14
合計	100	387

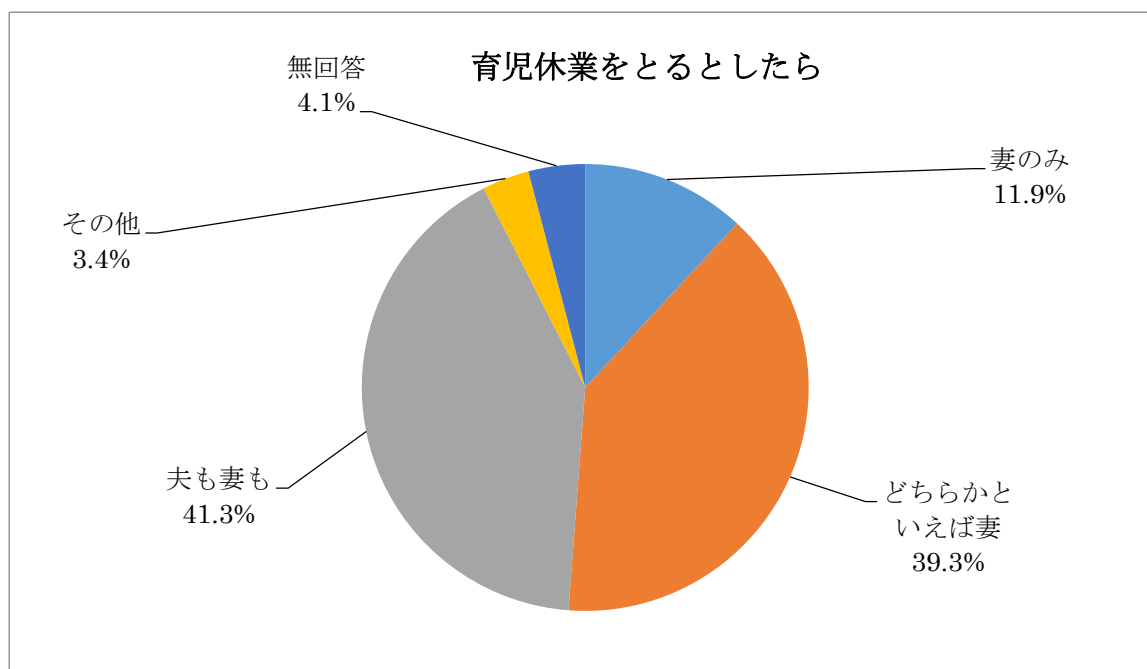
○問 18 有職者のみ・男女別

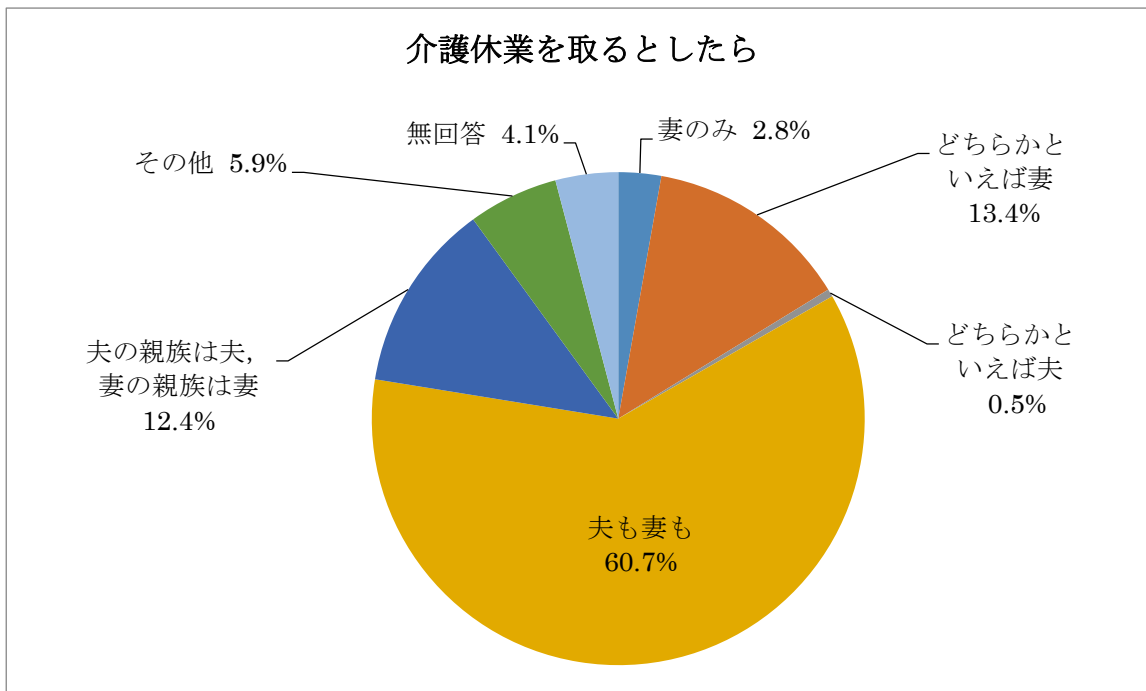
	有職者全体		男性	女性
	%	(人)	% (人)	% (人)
「仕事」を優先している	20.4	(49)	27.3 (30)	13.4 (17)
どちらかといえば「仕事」を優先している	36.7	(88)	37.3 (41)	36.2 (46)
「仕事」と「家庭生活や地域活動」のバランスをうまくとっている	25.8	(62)	20.9 (23)	30.7 (39)
どちらかといえば「家庭生活や地域活動」を優先している	7.5	(18)	5.5 (6)	9.4 (12)
「家庭生活や地域活動」を優先している	4.6	(11)	2.7 (3)	6.3 (8)
わからない	5.0	(12)	6.4 (7)	3.9 (5)
合計 (n)	100	(240)	100.1(110)	99.9(127)

問 19 育児休業・介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。あなたのお考えに最も
ちかいものをお答えください。

	妻のみ	どちらかといえ ば妻	夫のみ	どちらかといえ ば夫	夫も妻も	夫の親族は夫， 妻の親族は妻	その他	無回答	計
上段：％	11.9	39.3	0.0	0.0	41.3	0.0	3.4	4.1	100
下段：(人)	46	152	0	0	160	0	13	16	387
育児休業	2.8	13.4	0.0	0.5	60.7	12.4	5.9	4.1	99.8
介護休業	11	52	0	2	235	48	23	16	387

N = 387



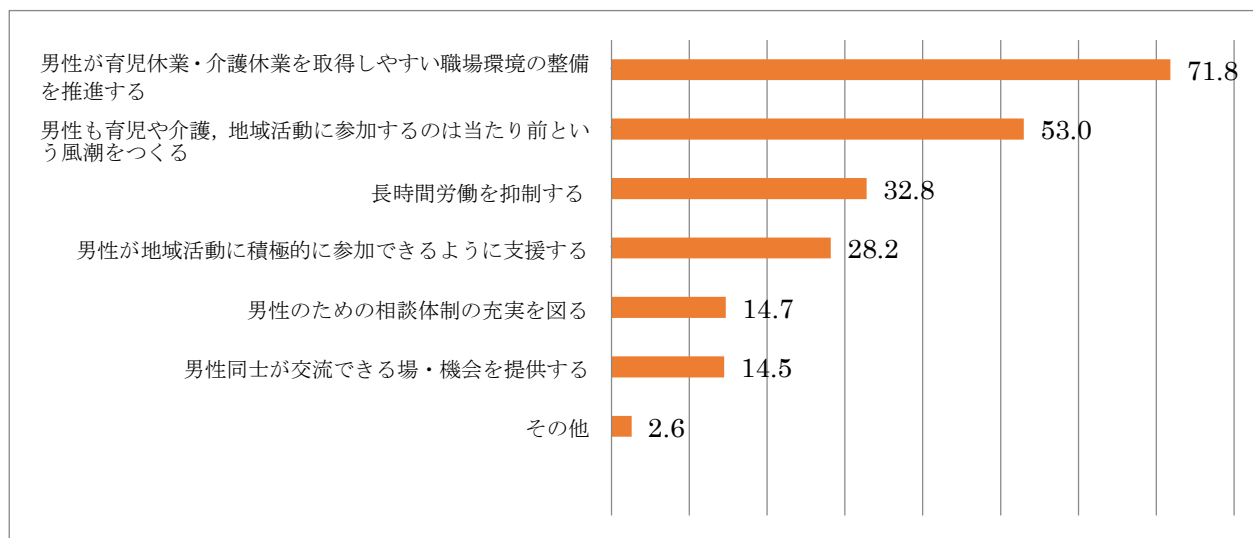


育児休業に関しては、「妻」と、「夫も妻も」にほぼ半々に意見が分かれたが、介護休業については、「夫も妻も」と考える人が6割に上る。

問 20 男性の育児や介護，地域活動への参加を進めるためには，何が必要だと思いますか。

(複数回答)

単位：% N=387



N=387

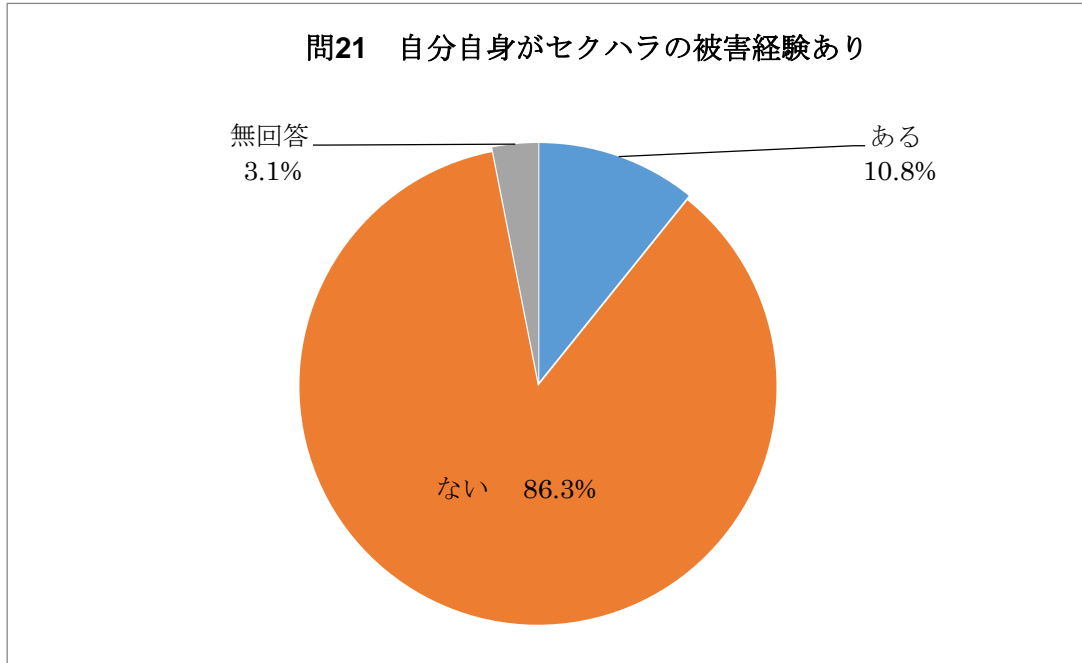
(複数回答)	%	人
男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する	71.8	278
男性も育児や介護，地域活動に参加するのは当たり前という風潮をつくる	53.0	205
長時間労働を抑制する	32.8	127
男性が地域活動に積極的に参加できるように支援する	28.2	109
男性のための相談体制の充実を図る	14.7	57
男性同士が交流できる場・機会を提供する	14.5	56
その他	2.6	10

男性の育児や介護，地域活動への参加を進めるためには，「男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する」(71.8%)「男性も育児や介護，地域活動に参加するのは当たり前という風潮をつくる」(53.0%)が多く選ばれている。

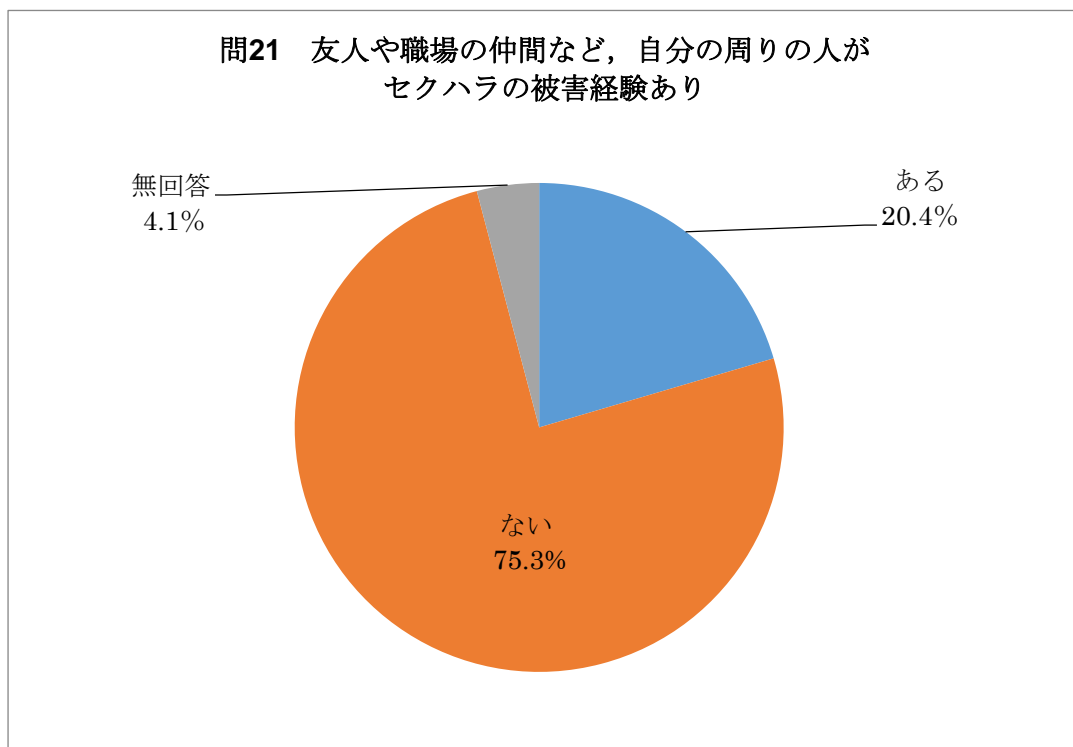
4. セクハラ・配偶者等からの暴力について

問21 あなた自身や周りの人がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことはありますか。

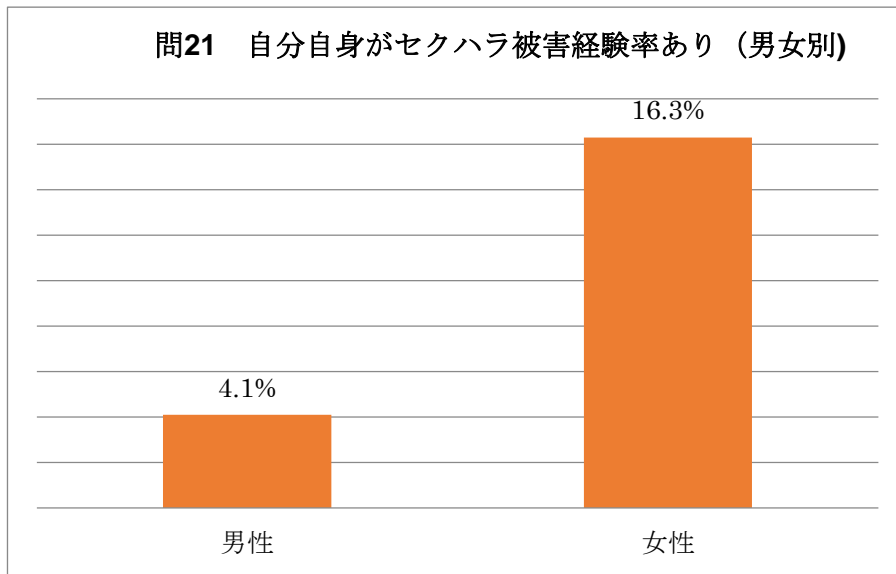
N = 387



N = 387



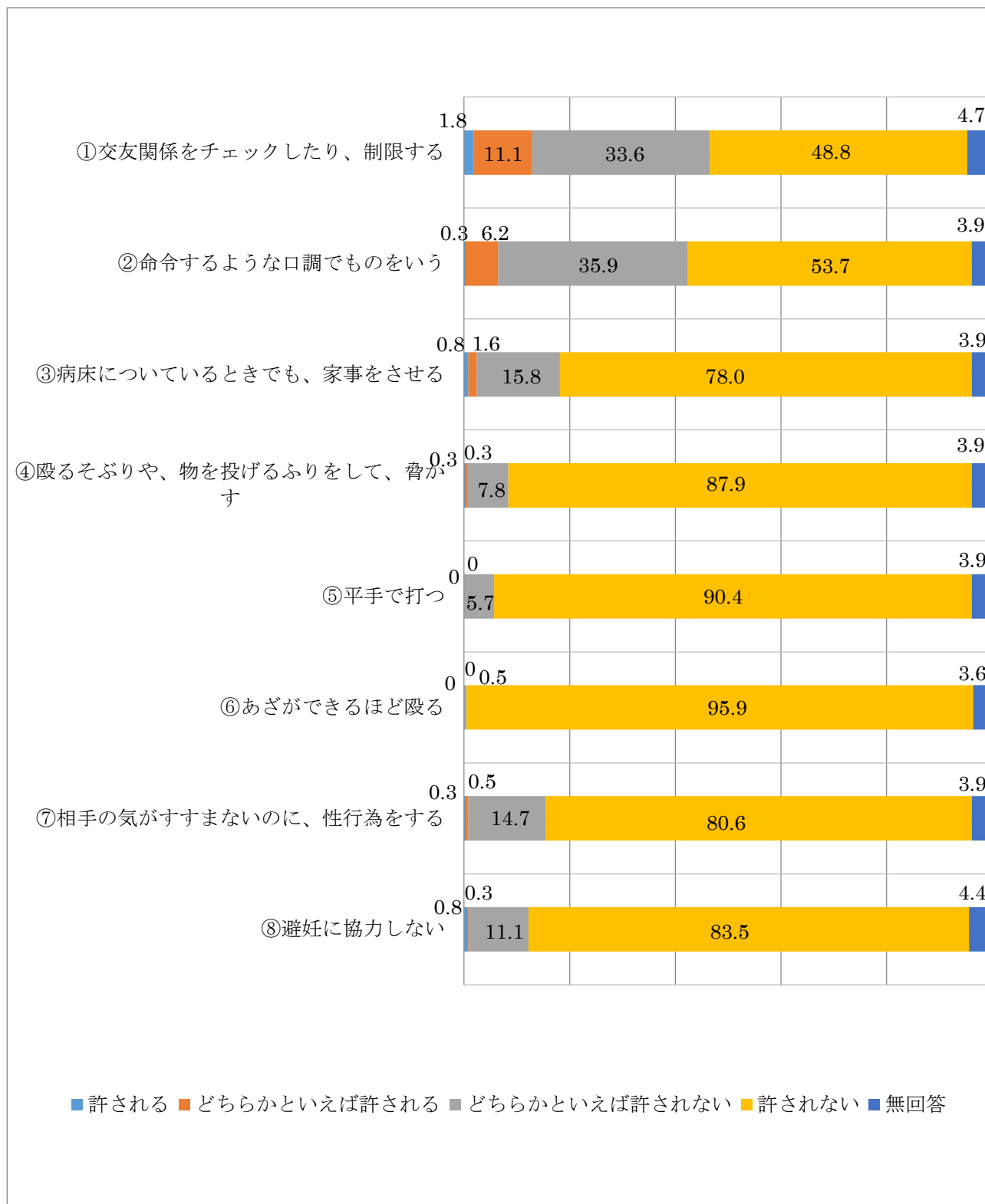
N = 男性 172 女性 209



セクシュアル・ハラスメント被害を自分が経験したことのある人は、回答者の1割に上る。被害経験率は、女性の方が高い(16.3%)が、男性も4.1%経験している($p < .01$)。

問 22 あなたは、次のようなことが配偶者間や交際相手間で行われた場合、許されると思いますか。

単位：% N=387



問 22

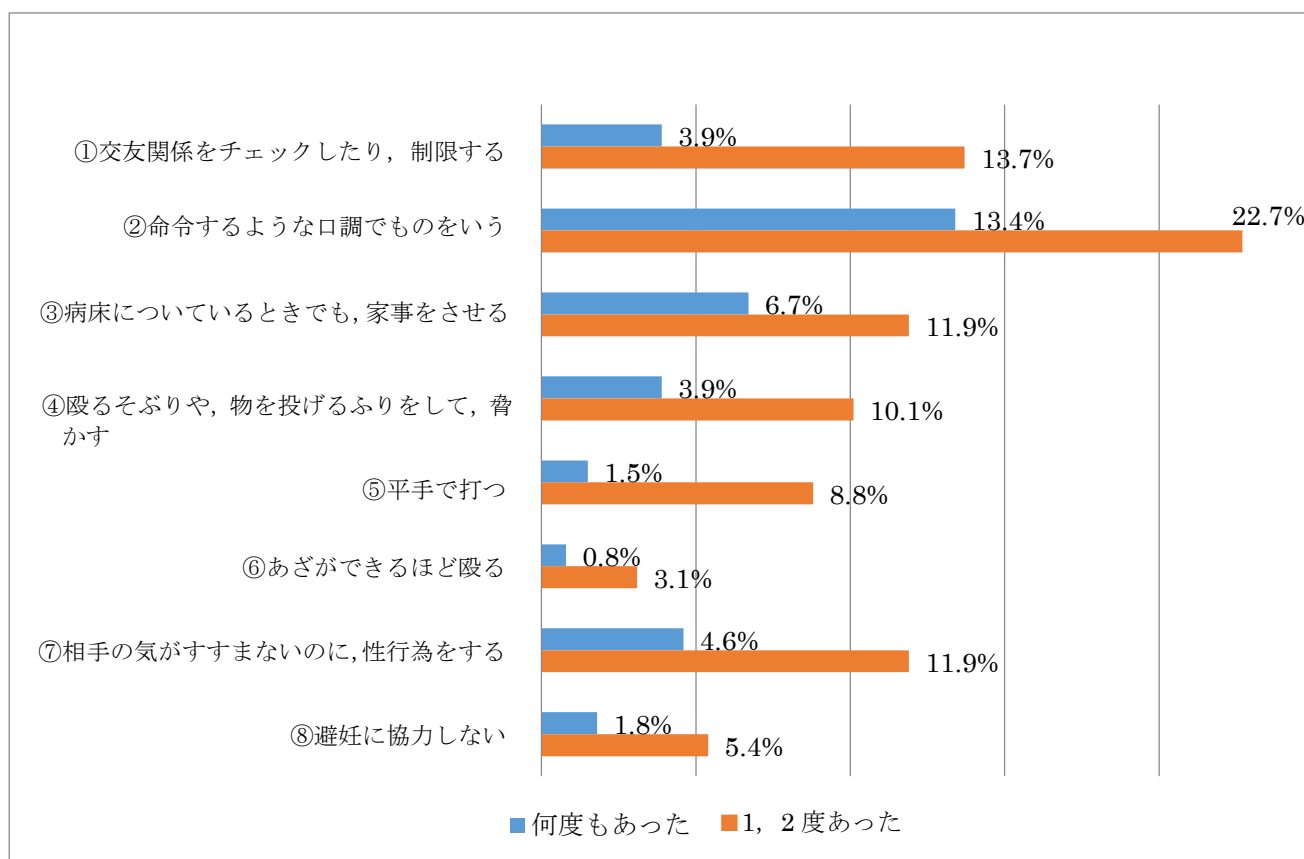
上段：％ 下段：(人) N=387	許される	どちらかとい えば許される	どちらかといえ ば許されない	許されない	無回答
①交友関係をチェック したり，制限する	1.8 (7)	11.1 (43)	33.6 (130)	48.8 (189)	4.7 (18)
②命令するような口調 でものをいう	0.3 (1)	6.2 (24)	35.9 (139)	53.7 (208)	3.9 (15)
③病床についていると きでも，家事をさせる	0.8 (3)	1.6 (6)	15.8 (61)	78.0 (302)	3.9 (15)
④殴るそぶりや，物を投 げるふりをして，脅かす	0.3 (1)	0.3 (1)	7.8 (30)	87.9 (340)	3.9 (15)
⑤平手で打つ	0	0	5.7 (22)	90.4 (350)	3.9 (15)
⑥あざができるほど殴 る	0	0	0.5 (2)	95.9 (371)	3.6 (14)
⑦相手の気がすすまな いのに，性行為をする	0.3 (1)	0.5 (2)	14.7 (57)	80.6 (312)	3.9 (15)
⑧避妊に協力しない	0.8 (3)	0.3 (1)	11.1 (43)	83.5 (323)	4.4 (17)

○問 22 男女別

単位：％		許される	どちらかとい えば許される	どちらかといえ ば許されない	許されない
①交友関係をチェック， 制限する (p<.01)	男性	3.1	14.1	40.5	42.3
	女性	1.0	9.5	31.3	58.2
②命令するような口調 (p<.01)	男性	0.6	9.8	45.4	44.2
	女性	0	3.4	32.0	64.5

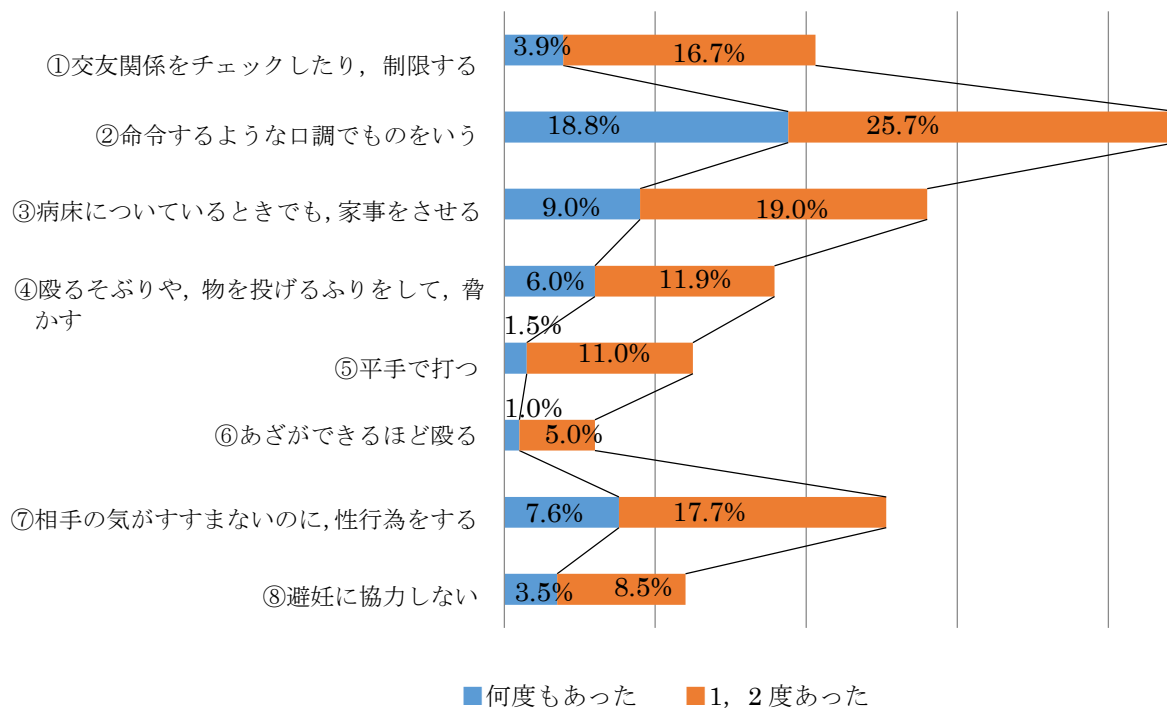
問 23 あなたは、配偶者や交際相手から次にあげるような行為を受けたことがありますか。

N=387

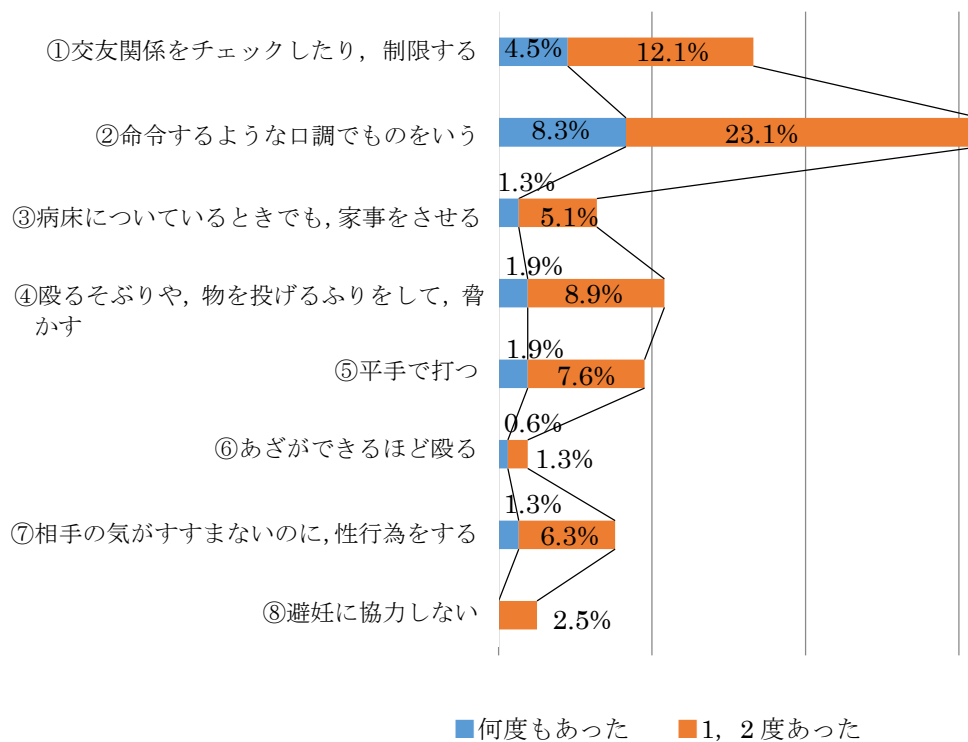


%(人) N=387	何度も	1, 2度	全くない	無回答
① 交友関係をチェックしたり, 制限する	3.9 (15)	13.7 (53)	76.7 (297)	5.7 (22)
② 命令するような口調でものをいう	13.4 (52)	22.7 (88)	57.6 (223)	6.2 (24)
③ 病床についているときでも, 家事をさせる	6.7 (22)	11.9 (46)	75.7 (293)	6.7 (26)
④ 殴るそぶりや, 物を投げるふりをして, 脅かす	3.9 (15)	10.1 (39)	79.8 (309)	6.2 (24)
⑤ 平手で打つ	1.5 (6)	8.8 (34)	83.5 (323)	6.2 (24)
⑥ あざができるほど, 殴る	0.8 (3)	3.1 (12)	89.9 (348)	6.2 (24)
⑦ 相手の気がすすまないのに, 性行為をする	4.7 (18)	11.9 (46)	76.7 (297)	6.7 (26)
⑧ 避妊に協力しない	1.8 (7)	5.4 (21)	86.0 (333)	6.7 (26)

問23 DV被害を受けたことのある女性



問23 DV被害をうけたことのある男性

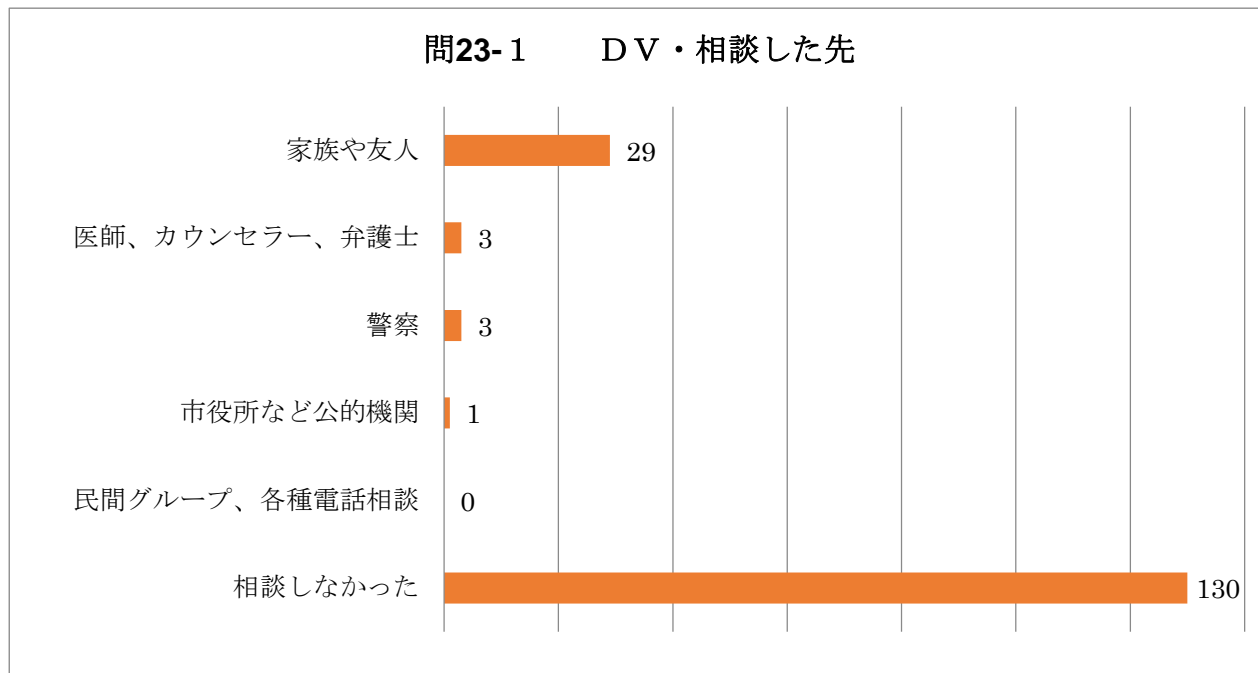


問 23-1 問 23 で「何度もあった」「1, 2度あった」とお答えの方におうかがいします。

問 23 で受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(複数回答)

単位：人 N=140



(複数回答)

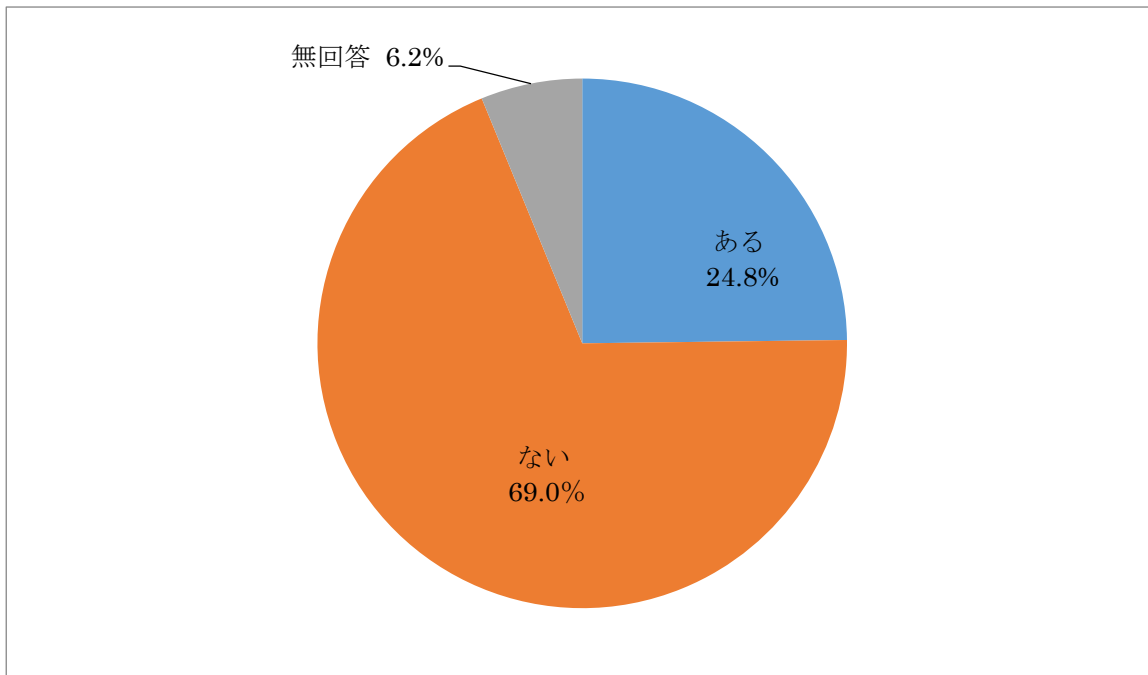
N=140

	%	人
家族や友人に相談した	20.7	29
医師・カウンセラー・弁護士などに相談した	2.1	3
警察署に連絡・相談した	2.1	3
市役所など公的機関の相談窓口で相談した (女性の悩み相談, 弁護士による市民法律無料相談, 心配ごと相談など)	0.7	1
民間グループ, 各種電話相談などに相談した	0	0
相談しなかった	92.9	130

「相談しなかった」人が圧倒的に多い一方で、3人の回答者は、警察に連絡・相談していた。

なお、表中の%の値は、問 23 で「あった」と答えた人が最多数の項目 (②命令口調) で 140 であったので、その 140 人の内の割合である。

問 24 あなたの周囲（知人，近隣，親せき）で，問 23 であげているような行為が起きているのを見たり，聞いたりしたことがありますか。 N=387

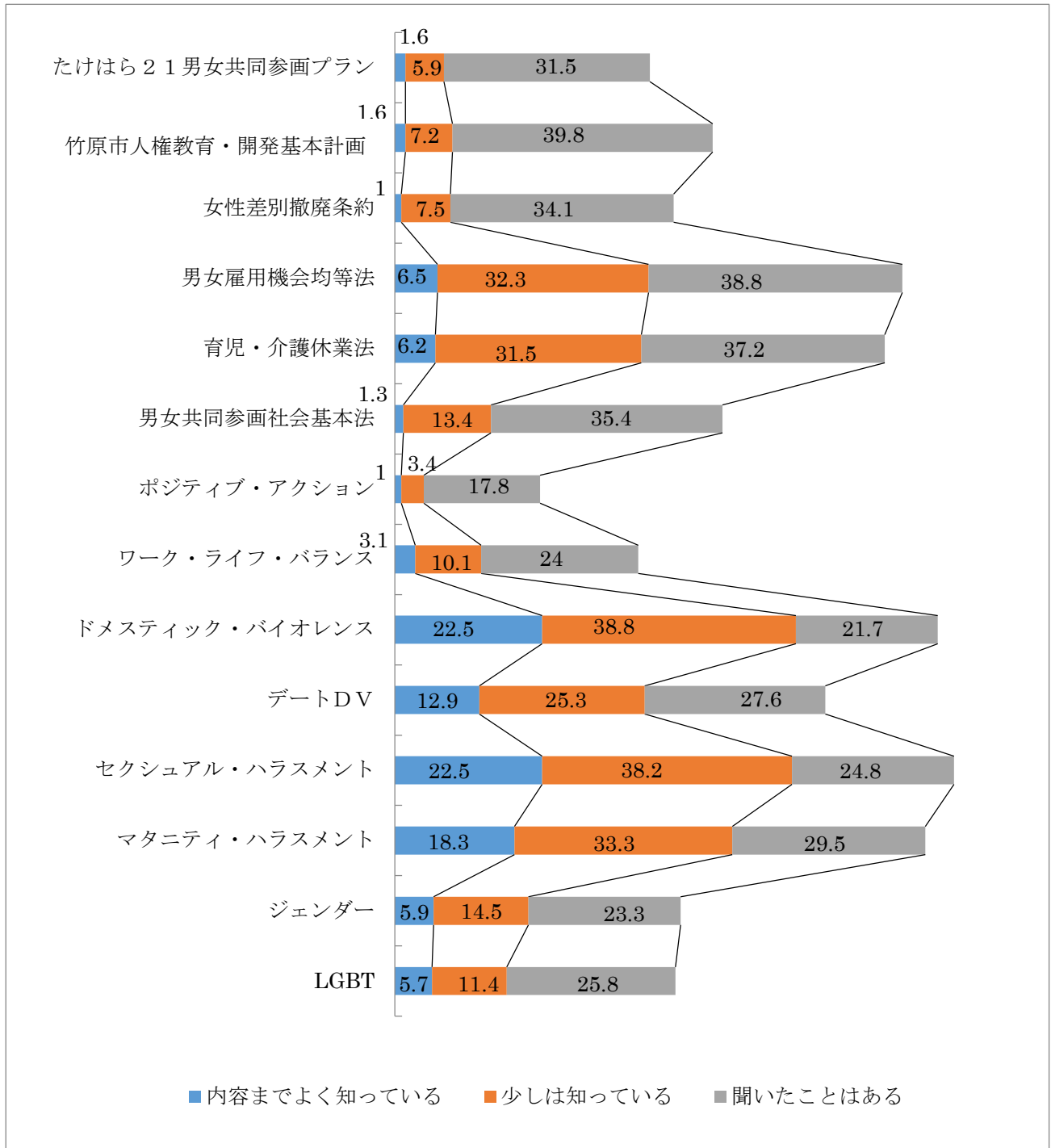


	%	人
ある	24.8	96
ない	69.0	267
無回答	6.2	24
合計	100	387

5. 男女共同参画に関する市の施策について

問 25 あなたは、次のような言葉や名称についてご存知ですか。

単位：％ N=387



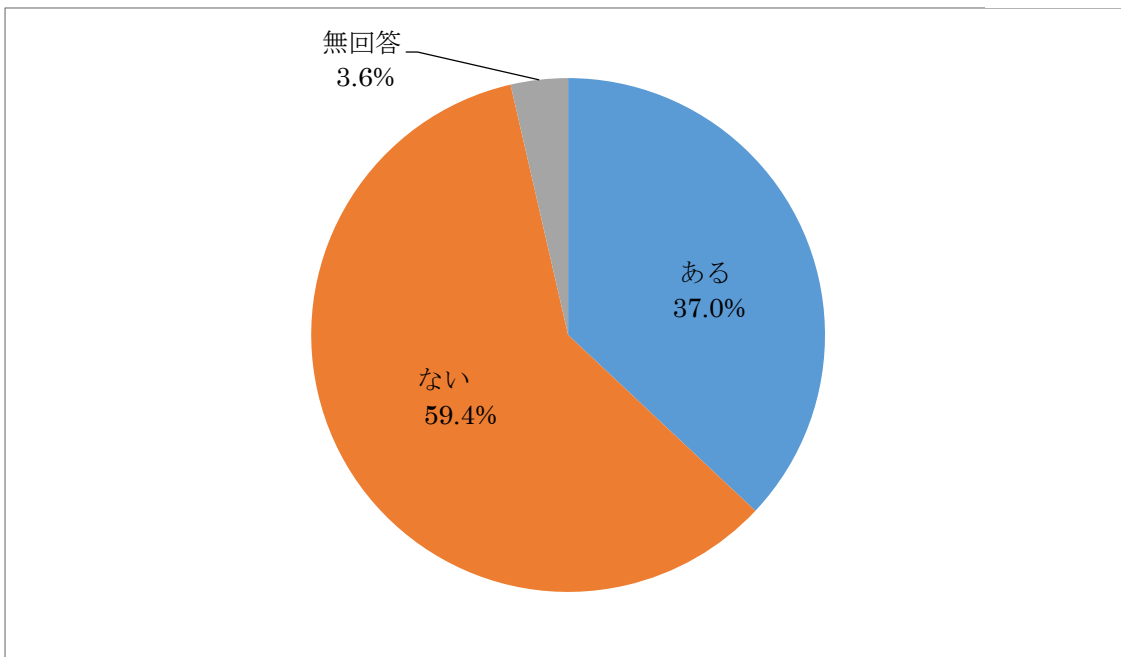
○問 25

	内容までよく知っている	少しは知っている	聞いたことはある	ここまでの計	全国調査 「聞いたことはある」
単位：% N=387					
たけはら21男女共同参画プラン	1.6	5.9	31.5	39.0	
竹原市人権教育・啓発基本 計画	1.6	7.2	39.8	48.6	
女性差別撤廃条約	1.0	7.5	34.1	42.6	36.1
男女雇用機会均等法	6.5	32.3	38.8	77.6	80.1
育児・介護休業法	6.2	31.5	37.2	74.9	
男女共同参画社会基本法	1.3	13.4	35.4	50.1	66.6
ポジティブ・アクション	1.0	3.4	17.8	22.2	18
ワーク・ライフ・バランス	3.1	10.1	24.0	37.2	42.2
ドメスティック・バイオレンス(DV)	22.5	38.8	21.7	83.0	82.1
デートDV	12.9	25.3	27.6	65.8	
セクシュアル・ハラスメント	22.5	38.2	24.8	85.5	
マタニティ・ハラスメント	18.3	33.3	29.5	81.1	
ジェンダー	5.9	14.5	23.3	43.7	40.3
LGBT(セクシュアル・マイノリティ)	5.7	11.4	25.8	42.9	

全体的に、法制度や行政の計画などの認知度は低いですが、その中では、「男女雇用機会均等法」と「育児・介護休業法」は比較的よく知られている。新しい政策用語である、「ポジティブ・アクション」「ワーク・ライフ・バランス」などが認知度が低い。それに比べ、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」「セクシュアル・ハラスメント」「マタニティ・ハラスメント」などの社会問題を表す言葉についてはよく知られている。

問 26 あなたは、男女平等（男女共同参画）について、学んだり、教えられたりしたことがありますか。

N = 387

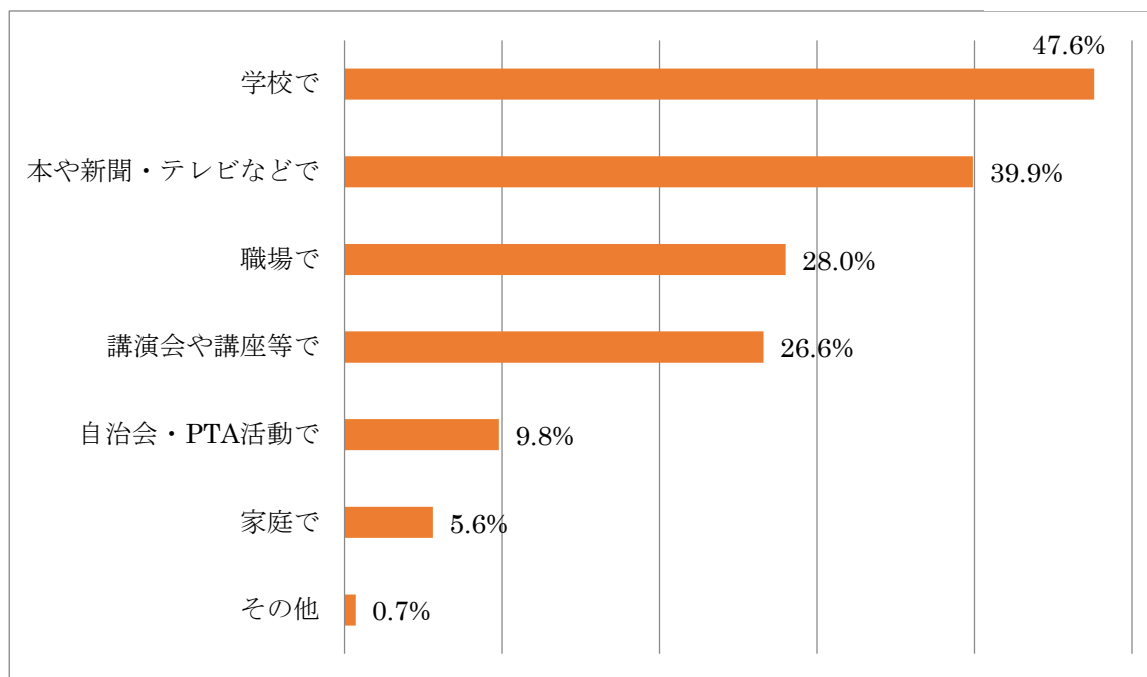


	%	人
ある	37.0	143
ない	59.4	230
無回答	3.6	14
合計	100	387

問 26-1 問 26 で「ある」とお答えの方

あなたはそれをどこで学んだり、教えられましたか。(複数回答)

N = 143



(複数回答)

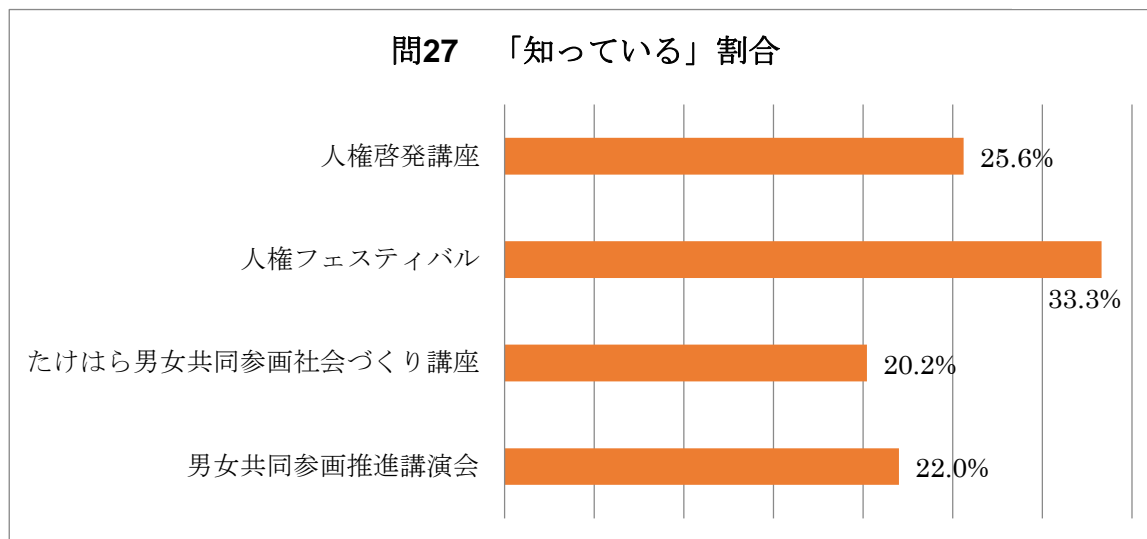
N = 143

	%	人
学校で	47.6	68
本や新聞・テレビなどで	39.9	57
職場で	28.0	40
講演会や講座等で	26.6	38
自治会・PTA活動で	9.8	14
家庭で	5.6	8
その他	0.7	1

学んだ経験に特に大きな男女差や世代差はみられないが、どこで学んだかについては、世代で違いがみられる。40代までの若い世代は、学校で学ぶことが多く、次いで、「本やテレビ」からや「職場」で学んでいる。しかし、70歳以上の世代では、第一に「本やテレビ」から知識を得、次いで「自治会やPTAなど」から学んでいる。

問 27 あなたは、竹原市で男女共同参画社会の実現に向けて、講演会や講座などを開催していることを知っていますか。

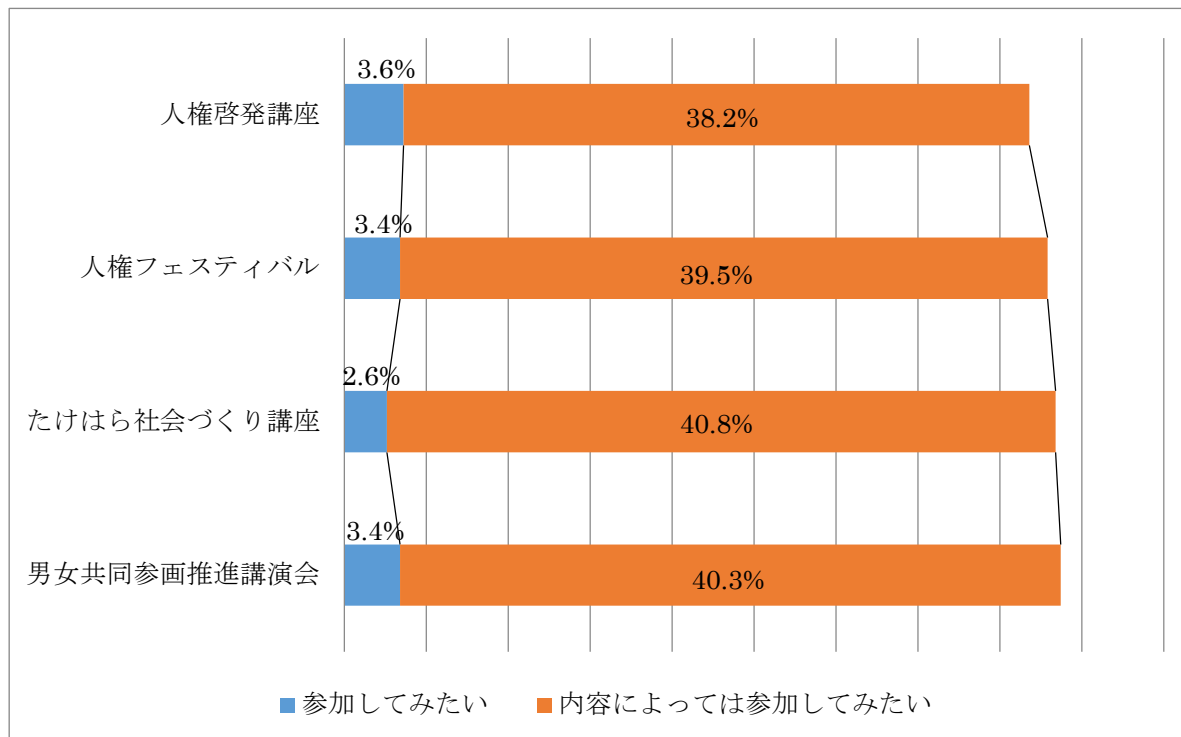
N=387



%(人)	知っている	知らない	無回答	合計
①男女共同参画推進講演会	22.0 (85)	73.4 (284)	4.7 (18)	100.1 (387)
②たけはら男女共同参画社会づくり講座	20.2 (78)	75.2 (291)	4.7 (18)	100.1 (387)
③人権フェスティバル	33.3 (129)	61.8 (239)	4.9 (19)	100.0 (387)
④人権啓発講座	25.6 (99)	69.8 (270)	4.7 (18)	100.1 (387)

問 28 あなたは、次のような講演会や講座などに参加したいと思いますか。

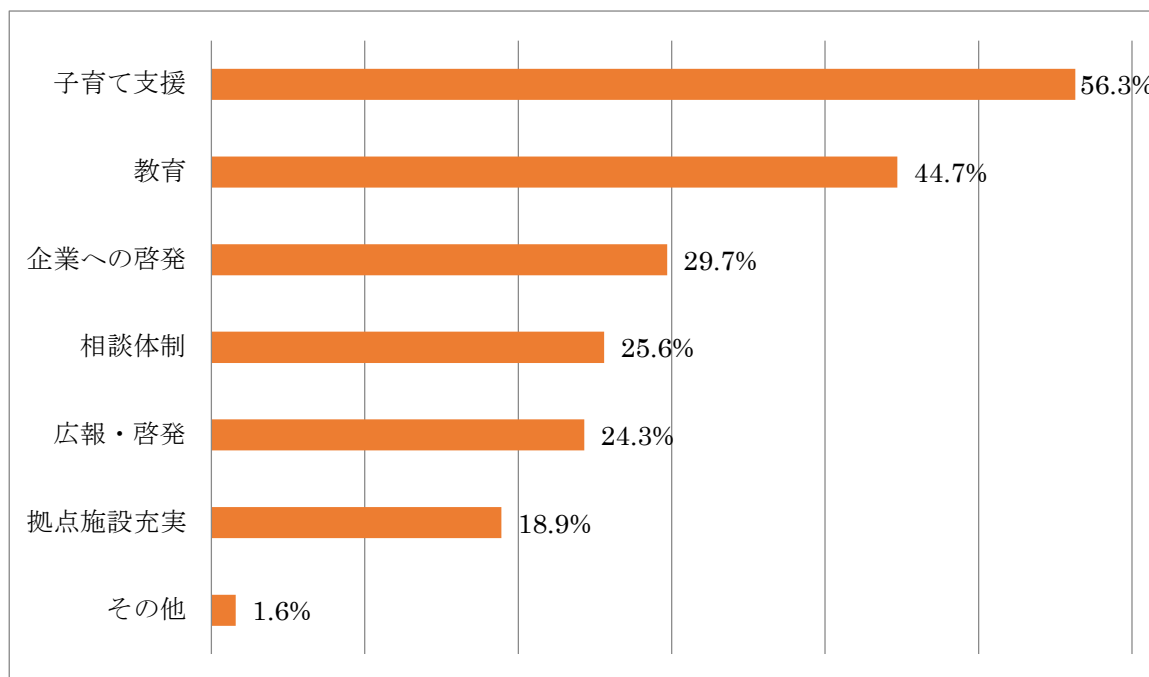
N=387



どの催しについてもほぼ同じ回答がされている（選んだ人数が数人違うだけである）。世代別でも、「参加してみたい+内容によっては参加してみたい」の割合は60代がもっとも低い(35.7%)が、おおむねどの世代も、4～5割の回答者は、「内容によっては参加してみたい」と答えている。男女別では、女性の方が「参加してみたい」と考える人が10ポイント以上多い。

%(人)	参加してみたい	内容によっては参加したい	参加するつもりはない	無回答	合計
男女共同参画推進講演会	3.4 (13)	40.3 (156)	51.0 (197)	5.4 (21)	100.1 (387)
たけはら男女共同参画社会づくり講座	2.6 (10)	40.8 (158)	51.4 (199)	5.2 (20)	100.0 (387)
人権フェスティバル	3.4 (13)	39.5 (153)	51.7 (200)	5.4 (21)	100.0 (387)
人権啓発講座	3.6 (14)	38.2 (148)	52.7 (204)	5.4 (21)	99.9 (387)

問 29 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて今後、市が特に力を入れるべきだと思うものは次のうちどれですか。(複数回答) N=387



○問 29 世代別/男女別 (複数回答)

N=387

	全 体 %(n)	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳 以 上	男 性	女 性
子育て支援	56.3 (218)	①	①	①	②	①	②	①	①
教育	44.7 (173)	②	②	②	①	②	①	②	②
企業への啓発	29.7 (115)	③	③	③	③				
相談体制	25.6 (99)		③						③
広報・啓発	24.3 (94)		③			③	③	③	
拠点施設の充実	18.9 (73)								
その他	1.6 (6)								

自由回答

男性	20代	問29で「教育」に力を入れるべき、と回答したが、子どもだけでなく、親世代への教育も必要だと思う。子は先生だけでなく、親からも情報を得たり、知識を得ているから。
男性	30代	婦人科や産婦人科がない。安田に2週に1回来る様だが、妊娠したまま仕事している人もいる。中にはつわりなどひどい人もいたり、ストレスで体調くずす人もいる。近くに病院がないとしんどいと思う。内科に行く位身近にあれば心強いと思うが…。2週に1回程度では待ち時間が長くてだけで終わり。参画以前に問題かと。結果仕事休んだり辞めたりしないといけない。不安があるなかでなかなか仕事はできないと思う。
男性	30代	私の考えでは、そもそも男女で分けて考えるというものが間違っていると考えていました。人それぞれで生活パターンは違うので性別で考えるのではなく皆が生活しやすい支援が企業や地域で充実すれば良いと思います。
男性	50代	男女のより一層の平等化を切に願います
男性	50代	男性は男性に出来る事をやり、女性は女性に出来る事をやる。そして互いに信頼をし、相手が弱っているときは男性でも育児や食事等をやる。そう言った思いやりの心を充実させ事により社会、家庭内がうまく回って行くと思う。何が何でも男女平等と言う様に決めつける事はしないで男性も女性も又、社会（会社）等が皆平等の思いを持ちつつ変化させた方が良く思う
男性	50代	男女共同参画の会議があるみたいだが、本当に参加した方が良い人でなく参加者に問題があると思う。特に竹原は教育委員会が機能してなく不登校、問題がある子（学校を休みがち）フリースクールもない。高校へ行っても学校へ行けなくなった子や親の相談窓口色々なボランティア活動をしている人などが参加してもらおうなど色々な人からの意見の出しやすい事を願う。子育て講演会などももっとやってほしい。行政への意見は名前を書いたら出しにくいもっと考えてほしい
男性	50代	男女という性の違いがあることを大前提に物事を考えない事自体大きな間違い！今の男女共同参画の施策は全てと云っていい程、女性は弱者、守るべき者という事が大前提になっていると思う。本当の意味での男女共同参画とは、性別、年齢の違いがある事を認め互いの不得意な部分を補えあえる意識を持つ事が最優先であると考えます。
男性	60代	何もかも男女平等ではなく、男性が負担が多いシーン、女性が多いシーンはあると思う。 男女でよく話し合いをして役割をしっかりと分担し、それぞれの役割が平等になれば、たとえば、女性が育児に専念しても、男性が何かを専念してやっても良いと思います。

男性	60代	若い世代の意見を反映した計画としてください。
男性	70歳以上	人材教育は今日的な重要課題として推進されているように思う。自身のためにも機会があれば講演会等積極的に参加したい。
男性	70歳以上	セクハラだけじゃないですよ。パワハラもありますよ。その人達は他人の不幸は蜜の味でしょうね。 近隣にはそういう人がいる。住みにくい地域です。 パワハラ被害者より
男性	70歳以上	男女共同参画推進講演会を各自治会において開催して欲しいと思います。人権啓発講座も同じです。
女性	20代	何か力になれることがあれば、力になりたいと思います。竹原市のために。
女性	30代	市長になる人や、市で偉いポジションにつく人自体が女の人が表舞台に出るのを嫌がっている（自覚なし）市の職員で、偉いポジションにつく女の人自体も男の人を立てる人限定なんではないか。竹原市は人権教育が推進しにくい市だと思う。もっと学校に出向いて教育して欲しい
女性	30代	女性の議員さんがもう少し増えたらいいと思う。
女性	40代	無駄な印刷、などに市民の税金を使用せず地域のために、市民の税金は利用して頂きたい。このアンケートをまとめるにも人件費…税金が使われる市長はもっとよく考えるべきだと思う。
女性	40代	男女共同参画の講演会に参加してみたいです。勉強できたらいいなと思います。男女平等について、まだまだ平等になってないなと思います。男の人も育児・家事に参加してほしいです。
女性	40代	日本は他国に比べて、会社、政治、家庭内の女性の地位が低いと感じる。今、私の職場でも、男性はすぐに役職に付くが年数の長い女性の方がなかなか役職には付けずその不満が仕事にも大きく悪影響をし、お客様に対してその事が表われているとすごく実感している。政治の社会でも男性ばかり、男性目線の社会になっている市役所でもそうだ！男女差別もはなはだしい！平等にすべきだ！
女性	50代	言葉がかたすぎる様な…耳から入ると「？」 漢字を見ると少しはピンとききます。
女性	50代	職種により違うと思うのですが、私は看護師、娘は美容師と、どちらかと言えば女性が多い職場です。その中へ男性が増えてきて、パワハラを感じる事がよくあります。家庭でも職場でも男の人達は、何か問題があれば、すぐ大きな声を出します。しかし、私はその様な態度は、絶対許しません。女性自身も強い心を持って立ち向かうべきだと考えています。
女性	50代	竹原市の人口の減少を止める。若い人が竹原で働き、安心して子ども産み、育児をし、お母さんも働けるような市にすることを、お願いしたい。（産婦人科を作ってください。）
女性	50代	竹原市における重要な決定機関（議会、役所ほか）に女性の比率が低く男女に限らず、年功序列の考え方が強い印象を持ちます。将来の竹原の展望

		を拡げるためには、女性や若者外部からの意見を取り込むような柔軟な姿勢を市に望みます。
女性	60代	男女共同参画といえども中々実現されない。やはり男性が主で女性は消極的な傾向にある。運営・進行に関しても男性がリードすることが多い女性も頑張りたい。
女性	60代	無駄なアンケートは実情を知る方法の為ですか。何をしようとしているのです。理解できません。
女性	60代	人権推進より早く、竹原市企業を取って来る事又病院、東広島市、本郷三原間にある総合病院を設立させる事、良き医師を来て下さい！竹原市はその方面に！
女性	60代	働き場所、会社の体制により個人企業は特にそれが成し得るかいな（否）か、それにより個人への風当たりの大小解かるかな？ 労働組合の一員として、個人の立場、すごい違いがあります
女性	60代	あまり興味がわからない
女性	70歳以上	家の中には、介護をしないといけない人がいるので男女共同などとは言えません。
女性	70歳以上	ここは今住んでいる所は大阪から 2 人で来たが近所のおつき合いとか全くない老人会に入っていないせいかもしれないが家主さんとは交流があるが1けん屋の人近所の人とは全く交流がなくてあいさつ程度です。ここはこういう所かとあきらめている

Ⅲ 男女共同参画に関する
市民意識調査票及び単純集計

男女共同参画に関する市民意識調査

調査ご協力をお願い

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、男女が性別にかかわらず、社会のあらゆる分野で個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、平成24年度から10年間の計画として「第2次だけはら21男女共同参画プラン」を策定しています。

本年度はプラン策定から5年目の中間地点を迎えるにあたり、市民の皆さまのご意見やお考えを広くお聞きし、今後の事業実施の参考とさせていただくために、市内にお住まいの20歳以上の方1,000人を無作為に抽出し、アンケート調査を実施することといたしました。その一人として、あなたをお願いすることとなりました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、より良い男女共同参画社会実現のため、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成28年7月

竹原市長 吉田 基

調査票のご記入にあたってのお願い

この調査結果は、統計的に処理にします。回答していただいた方への個人のプライバシーその他でご迷惑をお掛けすることは一切ございません。

1. この調査票は、封筒の宛名の方ご本人がお答えください。
2. ご記入は、黒または青の鉛筆、ボールペン、万年筆などをお願いいたします。
3. お答えはあてはまる番号を○で囲むか、具体的にご記入ください。
4. 質問文の後に（○は1つ）、（○はいくつでも）というように○の数の指定がありますので、その範囲内でお答えください。
5. ご記入いただいた調査票は、ご面倒ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**平成28年8月1日（月）まで**に、ご返送ください。
なお、お名前、ご住所の記入は必要ありません。
6. この調査に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

<お問い合わせ> 竹原市 市民生活部 人権推進室
電話：0846-22-7736 FAX：0846-22-7736

竹 原 市

% (実数) *%値は小数点第二位四捨五入で表示しています。

問1 あなたの性別は。(〇は1つ)

男性 44.4% (172) 女性 54.0% (209) 無回答 1.6% (6)

問2 あなたの年齢は。(平成28年4月1日現在)(〇は1つ)

1. 20~24歳 3.4% (13) 4. 35~39歳 8.5 (33) 7. 50~54歳 9.8 (38) 10. 65~69歳 14.2 (55)
2. 25~29歳 4.4 (17) 5. 40~44歳 7.5 (29) 8. 55~59歳 9.3 (36) 11. 70歳以上 23.8 (92)
3. 30~34歳 4.1 (16) 6. 45~49歳 6.2 (24) 9. 60~64歳 8.3 (32) 無回答 0.5 (2)

問3 あなたは、現在、結婚していますか(内縁・事実婚を含む)。(〇は1つ)

1. 未婚 17.3% (67) 3. 過去に離婚して、現在は独身 7.5 (29)
2. 結婚している 70.0 (271) 4. 死別して、現在は独身 4.9 (19) 無回答 0.3 (1)

問4 あなたのご家族(同居)の構成は次のどれですか。(〇は1つ)

1. 単身(一人暮らし) 9.3% (36) 4. 3世代家族 13.7 (53)
2. 夫婦のみ 31.3 (121) 5. その他 4.1 (16)
3. 2世代家族(親と子) 41.6 (161)

問5 あなたには子ども(同居)がいますか。いる場合、一番年齢の小さな子どもは次のどれですか。(〇は1つ)

1. 乳幼児(小学校入学前) 7.5% (29) 4. 高校生、大学、大学院生(高専、短大、専門学校を含む) 7.5 (29)
2. 小学生 5.2 (20) 5. 学校は卒業した(中退含む) 19.9 (77)
3. 中学生 3.6 (14) 6. いない 49.1 (190) 無回答 7.2 (28)

問6 あなたを含めて、同居家族に65歳以上の方がいますか。(〇は1つ)

1. いる 49.1% (190) 2. いない 50.4 (195) 無回答 0.5 (2)

問7 あなたは竹原市に住んで何年になりますか。(転出経験のある方は転入後からの年数)(〇は1つ)

1. 5年未満 7.2% (28) 3. 10年以上20年未満 10.9 (42)
2. 5年以上10年未満 7.0 (27) 4. 20年以上 74.9 (290)

問8 あなたの現在のご職業に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

1. 会社員(正社員)(一般事務、その他企業にお勤めの方など)	23.3%	(90)	
2. 公務員(正規雇用)	3.4	(13)	
3. 自営業(農林水産業、商工・サービス業、工業など)	8.0	(31)	
4. 自営業(開業医、弁護士、芸術家など)	1.3	(5)	
5. 専門職(病院勤務の医師・看護師、保育士、建築技術者など)	7.0	(27)	
6. パート・アルバイト、派遣・契約・臨時社員	18.0	(70)	
7. 専業主婦・専業主夫	13.2	(51)	
8. 学生	1.3	(5)	
9. 無職(7、8以外)	22.0	(85)	
10. その他	0.5	(2)	無回答 2.0(8)

問9 配偶者・パートナーのいる方のみお答えください。

あなたのご職業に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

1. 会社員(正社員)(一般事務、その他企業にお勤めの方など)	15.2%	(59)	
2. 公務員(正規雇用)	1.8	(7)	
3. 自営業(農林水産業、商工・サービス業、工業など)	6.2	(24)	
4. 自営業(開業医、弁護士、芸術家など)	0.5	(2)	
5. 専門職(病院勤務の医師・看護師、保育士、建築技術者など)	3.6	(14)	
6. パート・アルバイト、派遣・契約・臨時社員	9.3	(36)	
7. 専業主婦・専業主夫	12.1	(47)	
8. 学生	0		
9. 無職(7、8以外)	16.3	(63)	
10. その他	0.5	(2)	
無回答	0.8(3)		配偶者なし 33.6(130)

問10 あなたは、次にあげるような分野で、男性と女性の地位は平等になっていると思いますか。
 (①～⑧の各項目について、○はそれぞれ1つ) %(実数)

項 目	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
①学校生活では	0.8% (3)	6.5 (25)	54.8 (212)	4.4 (17)	0.3 (1)	28.7 (111)	4.7 (19)
②職場の中では	11.1 (43)	42.9 (166)	20.9 (81)	5.4 (21)	0.5 (2)	15.0 (58)	4.1 (16)
③家庭生活では	8.5 (33)	35.9 (139)	34.1 (132)	6.2 (24)	2.1 (8)	10.6 (41)	2.6 (10)
④地域、ボランティア活動では	3.1 (12)	15.0 (58)	42.4 (164)	8.8 (34)	0.8 (3)	25.8 (100)	4.1 (16)
⑤社会の慣習やしきたりでは	12.9 (50)	51.2 (198)	15.2 (59)	2.8 (11)	0.3 (1)	14.2 (55)	3.4 (13)
⑥法律や制度の上では	7.2 (28)	31.8 (123)	35.1 (136)	5.4 (21)	0.8 (3)	17.1 (66)	2.6 (10)
⑦政治・経済活動への参画では	11.9 (46)	43.2 (167)	22.7 (88)	1.3 (5)	0.3 (1)	17.1 (66)	3.6 (14)
⑧社会全体として男女の地位は	11.4 (44)	57.1 (221)	15.0 (58)	0.8 (3)	0.3 (1)	12.9 (50)	2.6 (10)

問 11 男女の意識の問題についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。

(①～⑨の各項目について、○はそれぞれ1つ)

%(実数)

項 目	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
①知的能力は、男女の差より個人差の方が大きい	62.0% (240)	26.4 (102)	1.6 (6)	2.1 (8)	5.7 (22)	2.3 (9)
②体力が必要ない仕事では、男女に能力の差はそれほどない	37.7 (146)	33.6 (130)	7.2 (64)	13.7 (88)	5.4 (49)	2.3 (8)
③ものごとを論理的に考えるのは、男性の方が優れている	16.5 (64)	29.5(114)	16.5 (64)	22.7 (88)	12.7 (49)	2.1 (8)
④女性の方が、感情的である	27.1 (105)	36.2 (140)	11.9 (45)	13.4 (52)	9.8 (38)	1.6 (6)
⑤男性は仕事、女性は家庭という考え方について	4.9 (19)	32.8 (127)	16.0 (62)	39.0 (151)	5.4 (21)	1.6 (6)
⑥男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよいという考え方について	18.6 (72)	39.3 (152)	16.0 (62)	19.6 (76)	4.9 (19)	1.6 (6)
⑦男性は女性を養う必要があるという考え方について	18.1 (70)	35.7 (138)	18.9 (73)	19.6 (76)	5.9 (23)	1.8 (7)
⑧男性は女性より多く収入を得る必要があるという考え方について	15.2 (59)	32.0 (124)	19.9 (77)	23.8 (92)	7.5 (29)	1.8 (6)
⑨女性は育児・介護を積極的に行う必要があるという考え方について	7.5 (29)	31.8 (123)	24.8 (96)	29.7 (115)	4.4 (17)	1.8 (7)

問 12 配偶者・パートナーのいる方のみお答えください。

日常的な家事・仕事等の役割分担についてあなたの現状に最も近いものをお答えください。

(①～⑨の各項目について、○はそれぞれ1つ)

項 目	する		が協力が妻が主で夫		じくらい妻と夫と同		が協力が夫が主で妻		する		その他	
	ほとんど妻が								ほとんど夫が			
①食事をつくる	76.6%	(196)	17.2	(44)	2.0	(5)	1.2	(3)	1.6	(4)	1.6	(4)
②配膳や後片づけなど	49.4	(126)	34.5	(88)	9.0	(23)	3.1	(8)	2.4	(6)	1.6	(4)
③洗濯・物干し	64.1	(164)	22.3	(57)	6.3	(16)	3.1	(8)	3.5	(9)	0.8	(2)
④掃除	54.3	(139)	27.3	(70)	9.8	(25)	2.7	(7)	4.7	(12)	1.2	(3)
⑤給与の配分など家計の管理	61.1	(157)	12.5	(32)	9.4	(24)	8.2	(21)	5.5	(14)	2.7	(7)
⑥財産の管理	44.3	(113)	12.2	(31)	16.1	(41)	8.2	(21)	15.7	(40)	3.5	(9)
⑦子どもの世話	38.9	(79)	43.8	(89)	15.8	(32)	0.5	(1)	1.0	(2)	—	
⑧PTA 保護者会などへの出席	51.9	(96)	29.2	(54)	8.6	(16)	5.4	(10)	4.9	(9)	—	
⑨高齢者・障害者等の介護	40.0	(58)	31.0	(45)	22.1	(32)	3.4	(5)	3.4	(5)	—	

問 13 あなたが家事(食事のしたくや洗濯、掃除など)、育児(子どもの食事・入浴の世話や送迎など)、介護(夫婦の親族の日常生活の世話など)にたずさわる時間の合計は、1日あたりどれくらいですか。(①、②の各項目について、○はそれぞれ1つ)

項目	まったくさわっていない	30分未満	～1時間未満	～3時間未満	～5時間未満	5時間以上	無回答
①平日	13.2% (51)	12.1 (47)	19.6 (76)	27.4 (106)	10.6 (41)	8.5 (33)	8.5 (33)
②休日	10.9% (42)	9.6 (37)	16.8 (65)	27.1 (105)	10.6 (41)	14.0 (54)	11.1 (43)

問 14 あなたは結婚や家庭についてどう思いますか。各項目についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。(①～③の各項目について、○はそれぞれ1つ)

項目	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない	わからない	無回答
①結婚は個人の自由であるから、結婚して しなくてもどちらでもよい	36.7% (142)	24.0 (93)	16.0 (62)	16.3 (63)	2.8 (11)	4.1 (16)
②子どもを持つことやその数は、周囲の考え より夫婦の考えを優先するべき	66.9 (259)	22.0 (85)	2.1 (8)	1.8 (7)	2.6 (10)	4.7 (18)
③結婚しても事情があれば離婚するの もやむを得ない	43.7 (169)	35.1 (136)	7.2 (28)	4.7 (18)	4.7 (18)	4.7 (18)

問 15 一般的に女性が仕事をもつことについて、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(○は1つ)

1. 女性は仕事をもたない方がよい	0.5%	(2)
2. 結婚するまでは、仕事をもつ方がよい	4.1	(16)
3. 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	6.2	(24)
4. ずっと仕事を続ける方がよい	30.0	(116)
5. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	43.4	(168)
6. その他	5.9	(23)
7. わからない	7.5	(29)
	無回答	2.3 (9)

問 16 あなたは、女性が働くことを難しくしていることには、どんな要因があると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 家事・育児との両立が難しい	72.1% (279)
2. 企業の労働条件が整っていない	46.5 (180)
3. 保育施設の数や保育内容が十分でない	36.2 (140)
4. 家族の協力や理解が得にくい	29.5 (114)
5. 高齢者や病人の介護は女性が当然とされている	34.1 (132)
6. 男性に比べて賃金が低く、職種も限られている	37.5 (145)
7. 女性の職業に対する社会の認識が不足している	19.6 (76)
8. 企業が結婚・出産した女性の雇用をいやがる傾向がある	32.0 (124)
9. 企業が女性に責任ある仕事を任せない	17.3 (63)
10. その他	6.2 (24)
11. わからない	1.8 (7)

問 17 育児、介護、家事などにより、仕事をやめた女性が再就職をしやすくなるためには、どんなことが必要だと思いますか。(○は2つ以内)

1. 就職の情報が手に入る	11.4% (44)
2. 再就職を支援する講座や職業訓練の機会がある	14.0 (54)
3. 企業が積極的に再就職しやすい職場づくりをする	55.3 (214)
4. 保育、介護サービスが利用できる	40.3 (156)
5. 女性の再就職を応援するような社会全体の意識	43.9 (170)
6. その他	0.8 (3)
7. わからない	5.0 (18)

問 18 生活の中での「仕事」と「家庭生活や地域活動」の優先度について、あなたの現状に最も近いものをお答えください。(○は1つ)

1. 「仕事」を優先している	15.8% (61)
2. どちらかといえば「仕事」を優先している	27.6 (107)
3. 「仕事」と「家庭生活や地域活動」のバランスをうまくとっている	19.9 (77)
4. どちらかといえば「家庭生活や地域活動」を優先している	11.1 (43)
5. 「家庭生活や地域活動」を優先している	11.1 (43)
6. わからない	10.9 (42) 無回答 3.6 (14)

問 19 育児休業・介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。あなたのお考えに最も近いものをお答えください。(①、②の各項目について、○はそれぞれ1つ)

項目	妻のみ 取る方 がよい	どちらか といえば妻 が取る方 がよい	夫のみ 取る方 がよい	どちらか といえば夫 が取る方 がよい	夫も妻 も取る 方がよ い	夫の親族は夫 が、妻の親族 は妻が取る 方がよい	その他	無 回 答
①育児休業	11.9% (46)	39.3 (152)	0.0 (0)	0.0 (0)	41.3 (160)		3.4 (13)	4.1 (16)
②介護休業	2.8% (11)	13.4 (52)	0.0 (0)	0.5 (2)	60.7 (235)	12.4 (48)	5.9 (23)	4.1 (16)

問 20 男性の育児や介護、地域活動への参加を進めるためには、何が重要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 男性も育児や介護、地域活動に参加するのは当たり前という風潮をつくる	53.0% (205)
2. 男性が育児休業・介護休業を取得しやすい職場環境の整備を推進する	71.8 (278)
3. 長時間労働を抑制する	32.8 (127)
4. 男性同士が交流できる場・機会を提供する	14.5 (56)
5. 男性が地域活動に積極的に参加できるように支援する	28.2 (109)
6. 男性のための相談体制の充実を図る	14.7 (57)
7. その他	2.6 (10)

問 21 あなた自身や周りの人がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことはありますか。
(①、②の各項目について、○はそれぞれ1つ)

項目	ある	ない	無回答
①自分自身	10.8% (41)	86.3 (334)	3.1 (12)
②友人や職場の仲間など、自分の周りの人	20.4% (79)	75.3 (292)	4.1 (16)

問 22 あなたは、次のようなことが配偶者間や交際相手間で行われた場合、許されると思いますか。

(①～⑧の各項目について、○はそれぞれ1つ)

項 目	許される	どちらかといえ ば許される	どちらかといえ ば許されない	許されな い	無回答
①交友関係をチェックしたり、制限する	1.8% (7)	11.1 (43)	33.6 (130)	48.8 (189)	4.7 (18)
②命令するような口調でものをいう	0.3 (1)	6.2 (24)	35.9 (139)	53.7 (208)	3.9 (15)
③病床に付いているときでも、家事をさせる	0.8 (3)	1.6 (6)	15.8 (61)	78.0 (302)	3.9 (15)
④殴るそぶりや、物を投げるふりをして、脅かす	0.3 (1)	0.3 (1)	7.8 (30)	87.9 (340)	3.9 (15)
⑤平手で打つ	0	0	5.7 (22)	90.4 (350)	3.9 (15)
⑥あざができるほど、なぐる	0	0	0.5 (2)	95.9 (371)	3.6 (14)
⑦相手の気がすすまないのに、性行為をする	0.3 (1)	0.5 (2)	14.7 (57)	80.6 (312)	3.9 (15)
⑧避妊に協力しない	0.8 (3)	0.3 (1)	11.1 (43)	83.5 (323)	4.4 (17)

問 23 あなたは、配偶者や交際相手から次にあげるような行為を受けたことがありますか。

(①～⑧の各項目について、○はそれぞれ1つ)

項 目	何度もあった	1、2度あった	全くない	無回答
①交友関係をチェックしたり、制限する	3.9% (15)	13.7 (53)	76.8 (298)	5.7 (22)
②命令するような口調でものをいう	13.4 (52)	22.7 (88)	57.7 (224)	6.2 (24)
③病床についているときでも、家事をさせる	6.7 (22)	11.9 (46)	75.8 (294)	6.7 (26)
④殴るそぶりや、物を投げるふりをして、脅かす	3.9 (15)	10.1 (39)	79.9 (310)	6.2 (24)
⑤平手で打つ	1.5 (6)	8.8 (34)	83.5 (324)	6.2 (24)
⑥あざができるほど、なぐる	0.8 (3)	3.1 (12)	89.9 (349)	6.2 (24)
⑦相手の気がすすまないのに、性行為をする	4.6 (18)	11.9 (46)	76.8 (298)	6.7 (26)
⑧避妊に協力しない	1.8 (7)	5.4 (21)	86.1 (334)	6.7 (26)

問 23-1 問 23 で「何度もあった」「1、2度あった」とお答えの方におうかがいします。

問 23 で受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|------------|
| 1. 家族や友人に相談した | 20.7% (29) |
| 2. 医師・カウンセラー・弁護士などに相談した | 2.1 (3) |
| 3. 民間グループ、各種電話相談などに相談した | 0 (0) |
| 4. 市役所など公的機関の相談窓口相談した
(女性の悩み相談、弁護士による市民法律無料相談、心配ごと相談など) | 0.7 (1) |
| 5. 警察署に連絡・相談した | 2.1 (3) |
| 6. 相談しなかった | 92.9 (130) |

問 24 あなたの周囲(知人、近隣、親せき)で、問 23 であげているような行為が起こっているのを見たり、聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------------|-------------------|---------------|
| 1. ある 24.8% (96) | 2. ない 69.0% (267) | 無回答 6.2% (24) |
|------------------|-------------------|---------------|

問25 あなたは、次のような言葉や名称についてご存知ですか。
 (①～⑭の各項目について、○はそれぞれ1つ)

		く 知 つ て い る	内 容 も 少 し は 知 つ て い る	聞 い た こ と は あ る	全 く 知 ら な い	無 回 答
男女共同参画に関することから	①たけはら21男女共同参画プラン	1.6% (6)	5.9 (23)	31.5 (122)	55.8 (216)	5.2 (20)
	②竹原市人権教育・啓発基本計画	1.6 (6)	7.2 (28)	39.8 (154)	46.8 (181)	4.7 (18)
	③女性差別撤廃条約	1.0 (4)	7.5 (29)	34.1 (132)	52.5 (203)	4.9 (19)
	④男女雇用機会均等法	6.5 (25)	32.3 (125)	38.8 (150)	17.1 (66)	5.4 (21)
	⑤育児・介護休業法	6.2 (24)	31.5 (122)	37.2 (144)	20.4 (79)	4.6 (18)
	⑥男女共同参画社会基本法	1.3 (5)	13.4 (52)	35.4 (137)	44.4 (172)	5.4 (21)
	⑦ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	1.0 (4)	3.4 (13)	17.8 (69)	71.8 (278)	5.9 (23)
	⑧ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	3.1 (12)	10.1 (39)	24.0 (93)	56.6 (219)	6.2 (24)
	⑨ドメスティック・バイオレンス (DV) (配偶者・パートナーからの暴力)	22.5 (87)	38.8 (150)	21.7 (84)	12.1 (47)	4.9 (19)
	⑩デートDV (交際相手からの暴力)	12.9 (50)	25.3 (98)	27.6 (107)	28.7 (111)	5.4 (21)
	⑪セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)	22.5 (87)	38.2 (148)	24.8 (96)	10.1 (39)	4.4 (17)
	⑫マタニティ・ハラスメント (妊娠・出産などに関わる嫌がらせ)	18.3 (71)	33.3 (129)	29.5 (114)	14.5 (56)	4.4 (17)
	⑬ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別のとらえ方)	5.9 (23)	14.5 (56)	23.3 (90)	51.7 (200)	4.7 (18)
	⑭LGBT(セクシュアル・マイノリティ)	5.7 (22)	11.4 (44)	25.8 (100)	52.2 (202)	4.9 (19)

問 26 あなたは、男女平等(男女共同参画)について、学んだり、教えられたりしたことがありますか。
 (○は1つ)

1. ある 37.0% (143)	2. ない 59.4% (230)	無回答 3.6% (14)
-------------------	-------------------	---------------

問 26-1 問 26 で「ある」とお答えの方におうかがいします。

あなたは、それをどこで学んだり、教えられましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家庭で	5.6% (8)	4. 本や新聞・テレビなどで	39.9 (57)
2. 学校で(小学校・中学校・高等学校 大学・専門学校等で)	47.6 (68)	5. 自治会・PTA活動で	9.8 (14)
3. 職場で	28.0 (40)	6. 講演会や講座等で	26.6 (38)
		7. その他	0.7 (1)

問 27 あなたは、竹原市で男女共同参画社会の実現に向けて、講演会や講座などを開催していることを知っていますか。(①～④の各項目について、○それぞれ1つ)

項 目	知っている	知らない	無回答
①男女共同参画推進講演会	22.0% (85)	73.4 (284)	4.7 (18)
②たけはら男女共同参画社会づくり講座	20.2 (78)	75.2 (291)	4.7 (18)
③人権フェスティバル	33.3 (129)	61.8 (239)	4.9 (19)
④人権啓発講座	25.6 (99)	69.8 (270)	4.7 (18)

問 28 あなたは、次のような講演会や講座などに参加したいと思いますか。

(①～④の各項目について、○それぞれ1つ)

項 目	参加してみたい	内容によっては 参加したい	参加する つもりはない	無回答
①男女共同参画推進講演会	3.4% (13)	40.3 (156)	51.0 (197)	5.4 (21)
②たけはら男女共同参画社会づくり講座	2.6 (10)	40.8 (158)	51.4 (199)	5.2 (20)
③人権フェスティバル	3.4 (13)	39.5 (153)	51.7 (200)	5.4 (21)
④人権啓発講座	3.6 (14)	38.2 (148)	52.7 (204)	5.4 (21)

問 29 あなたは、男女共同参画社会の実現に向けて今後、市が特に力を入れるべきだと思うものは次のうちどれですか。また、6つの項目以外にも特に力を入れるべきだと思うものがあればお書きください。(○はいくつでも)

1. 教育	44.7% (173)	4. 広報・啓発	24.3 (94)
2. 子育て支援	56.3 (218)	5. 拠点施設の充実	18.9 (73)
3. 相談体制	25.6 (99)	6. 企業に対する啓発	29.7 (115)
7. その他	1.6 (6)		

IV 調査結果のまとめ

1. 市民調査のまとめ

本調査の回答者の構成は、平成 23 年に実施した調査の回答者と、性別、世代、婚姻状態などの面で大きな違いはないものであるため、前回調査の回答結果と比較しながら、回答の特徴についてみていきました。

(1) 男女平等に関する意識等について

問 10 の男女の地位の平等に関する回答結果では、回答者が最も多く「平等になっている」と考えるのは「学校生活」で(54.8%)、次いで「地域、ボランティア活動」(42.4%)となっています。

また、「職場」「社会の慣習やしきたり」「政治・経済活動」「社会全体」などで男性が優遇されていると回答した人が、女性の回答者で多くなっています。

問 11 の男女の意識については、「男性は女性を養う必要がある」のみ男女で回答の傾向に差が見られ、男女とも「どちらかと言えばそう思う」が最多なものの、女性の方が「そう思わない」割合が少し多めとなっています。

「知的能力は、男女の差より個人差の方が大きい」については、全体的に同意する回答者が多いが、職業別で少し差が見られます。

その一方で、「男性は女性を養う必要がある」(53.8%)、「男性は女性より多く収入を得る必要がある」(47.2%)なども依然として残っています。

「男は仕事、女は家庭」という、いわゆる「性別分業」については意見が半々に分かれており、もっとも多い回答は「そう思わない」(39%)であり、前回調査より 5 ポイント増えています。

(2) 家事分担や家事時間、ワーク・ライフ・バランスについて

問 12 の家事分担については、ほとんどの項目で大半の回答者が「家事ほとんど妻がしている」と回答しており、前回調査と変化は見られません。

家事の中でも特に「食事づくり」「洗濯」「家計管理」は妻がしているものの、「子どもの世話」「配膳や片付け」では「妻が主で夫が協力」が増える傾向も前回調査と同様ですが、「配膳や片付け」「洗濯」「掃除」「子どもの世話」で、夫が協力するとした回答者の割合が前回調査よりも増えています。

問 13 の家事時間については、性別によって家事をする時間に大きな差があり、前回調査と同様の結果となりました。ただ、少し長い時間(1 時間～3 時間)平日に家事をする有職男性が前回調査よりも増えており(11.7→21.6%)、また、3 時間以上の長時間平日に家事をする有職女性が極端に減っています(62%→31.3%)。

問 18 の仕事と家庭生活や地域活動のバランスについては、仕事優先派が 43.4%と多く、「バランスを取っている」と答えた回答者が 19.9%でした。

今回の調査では有職者のみ取り出して男女別でみたところ、仕事を持っている男性の 64.6%が「仕事優先派」でしたが、「バランスを取っている」と答えた有職男性も 20.9%いました。ただし、「家庭・地域優先派」はほとんどいないという結果でした。

問 19 の育児休業・介護休業については、育児休業は「妻」(51.2%)と、「夫も妻も」(41.3%)の答えに分かれたのに対し、介護休業は、「夫も妻も」と答えた回答者が多く(60.7%)になっており、前回調査と同じ結果でした。

問 20 の「男性の育児・介護や地域活動への参加を進めるために必要なこと」について最も多く選ばれたのは「職場環境の整備」、次いで「それが当たり前という風潮」であるという結果で、前回調査と同じ傾向でした。

(3) 結婚や家庭について

問 14 の「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」と「結婚しても事情があれば離婚するのもやむを得ない」については、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」などと回答する人の割合が前回調査に比べどちらも少し増えて(60.7%, 78.8%)と多数派となっています。

また、「子どもを持つことやその数は、周囲の考えより夫婦の考えを優先するべき」は前回も今回も圧倒的に賛成派が多く(88.9%)なっています。

結婚や離婚、子どもを持つことは、「義務」や「つとめ」というよりも、個人個人が選択すべき問題だという考え方が広く浸透していることがわかります。また、「子どもを持つこと」や「離婚」については、世代や性別の差がはっきりとは見られませんでした。

(4) 女性の就労について

問 15 の「女性が仕事を持つことについて」は「いったん仕事をやめ、再び働く」という、いわゆる女性のM字型就労パターンを支持する回答がもっとも多く(43.4%)、次いで「ずっと仕事を続ける方がよい」(30.0%)の順になっており、前回調査と同じ傾向でした。ただし、前回よりも「いったん仕事をやめ」を選んだ割合は約 10 ポイント減り、「ずっと仕事を続ける」が約 10 ポイント増えています。このことは、市民の考えが変化している表れといえます。

問 16 「女性が働くことを難しくしている要因」(複数回答)では、前回も、今回もほぼ同じ回答傾向で、「家事・育児との両立が難しい」が最も多く選ばれ(72.1%)、次に「企業の労働条件が整っていない」(46.5%)という結果になりました。

問 17 「育児、介護、家事などにより、仕事をやめた女性が再就職をしやすいためには、どんなことが必要だと思いますか。」という質問には、「企業が積極的に再就職しやすい職場づくりをする」が最も多く選ばれ(55.3%)、次いで「女性の再就職を応援するような社会全体の意識」(43.9%)となり、前回 1 位の「保育、介護サービス等の充実」とは異なる結果となりました。

(5) セクハラ、DVについて

問 21 のセクシュアル・ハラスメントの自分自身の被害経験については、男性は(4.1%)前回調査とほぼ同じで、女性(16.3%)は前回(12.6%)よりも少し増加しています。

周りの人が被害にあったことがある(20.4%)は、前回とほぼ同じ割合でした。

問 22 のDVになりかねない言動については、圧倒的多くの回答者がどの行為も「どちらかと言えば許されない」または「許されない」と考える傾向があり、前回結果とほぼ同じ結果でした。ただ、男女で少しだけ見解が異なり、男性のうちの 17.2%は「交友関係をチェックしたり制限すること」を「許される」「どちらかと言えば許される」と思い(女性は 10.5%)、また「命令するような口調」については男性のうちの約 10.4%が「許される」「どちらかと言えば許される」と考えています(女性は 3.4%)。

問 23 のDVの被害率については、全体の傾向は前回調査と変化ありませんでしたが、「交友関係のチェック、制限」の女性被害率が約 5 ポイント増加の 20.6%、「命令口調」の女性被害率が約 7 ポイント増加の 44.5%、男性は約 5 ポイント増加の 31.4%、「病床に就いている時でも家事をさせる」の女性の被害率が約 2.5 ポイント増加の 28.0%、「平手で打つ」の男性被害率が約 5 ポイント増加の 9.5%、「相手の気が進まないのに性行為をする」は男女とも 5 ポイント程度減少(男性 7.6%、女性 25.3%) しています。

また、前回も今回も「あざができるほど殴る」などの被害を受けている市民が実際にいることがこの調査で確認できました。そして、誰にも相談しなかった人が圧倒的ですが、同時に警察に連絡・相談した人も存在していました。

周りで DV に該当しかねない行為を見聞きしたことのある人は、24.8%にあたり、これも前回とほぼ同じ割合です。

(6) 市が力を入れるべき施策について

1 位は「子育て支援」(56.3%)、2 位は「教育」(44.7%)で、この順位も数値も前回の調査とほぼ同じです。

2. まとめ

家庭内の家事の大部分を妻が担っているという役割分担は相変わらず残っていますが、子育てや介護などは男性もかかわる時間が増え、夫婦ともに関わるべきだという考えが広まりつつあります。

また、女性の家事負担が、就労の大きなネックであることが認識されていると同時に、女性の再就職や、男性の家事/地域への参加を進めていくためには、職場の環境づくりや社会全体の応援が重要だということが広く市民に認識されています。

DVやセクハラ被害については、言葉の認知度や、それが問題であるという認識は広がっていると同時に、確実に被害者が存在することがあらためて確認されました。早期に相談につなげ、深刻な事態を避けるような支援が必要です。